

iD24 | 10in | 14out
オーディオ・インターフェイス

Manual v1.0

AUDIENT

Welcome to your new Audient iD24 Audio Interface

audient 製品をお買い上げいただき、
誠に有難うございます。

ご使用の前に、以下のURLから最新のソフトウェア
とファームウェアをダウンロードしてください。

audient.com/products/iD24

同梱物:

- iD24 本体
- USB (C-C) ケーブル
- クイックスタートガイド



主な特徴:

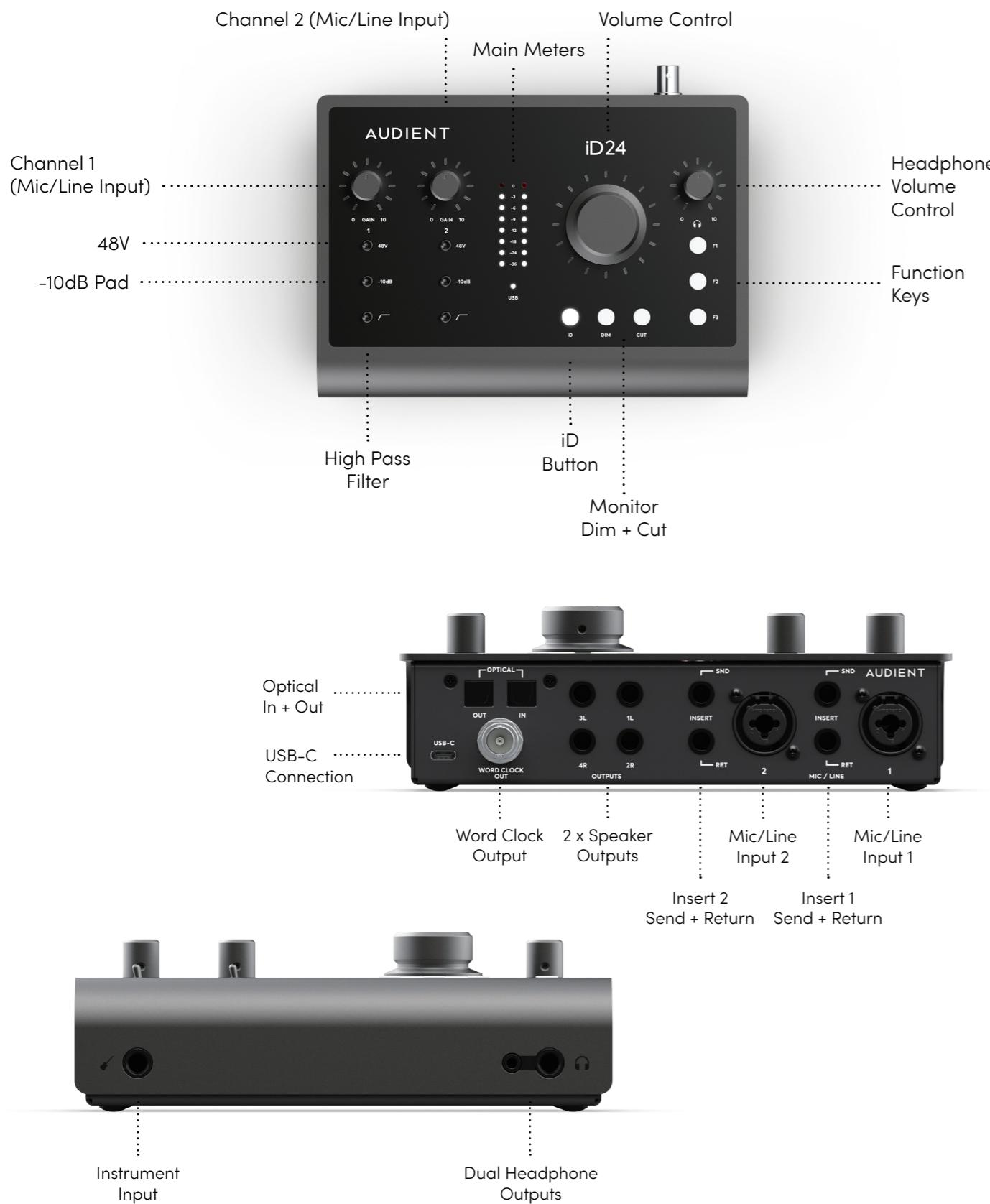
- 2系統のclass-A Audientコンソール・マイクプリアンプ
- 最高クラスのAD/DA コンバーター
- 1 系統のディスクリートJFET 楽器入力 (D.I)
- メイン出力/サブ出力
- 独立DAコンバーターによる高出力のデュアル・ヘッドフォンアンプ
- 1系統のADAT入出力
- 2系統のアウトボード接続が可能なバランス端子のインサート入出力
- 超低レイテンシーDSPミキサー
- ループバック機能
- スクロール・コントロール
- 割り当て可能な3つのファンクション・キー
- Dim/Cut コントロール
- +48V, Pad、HPFスイッチ
- USB 3.0 対応
- 24bit/96kHz
- ワードクロック出力
- フルメタル設計
- 豊富なフリーソフトウェア&バンドル

目次

iD24 製品概要	4	ソフトウェアの特徴	26
安全にご使用頂くための注意	5	入力チャンネル - チャンネルの種類	27
インストール方法	8	チャンネルの機能	29
MacOS の場合	9	マスターセクションの機能	30
Windows の場合	12	チャンネルの特徴	31
iDアプリとファームウェアアップデート	14	システムパネル機能	33
ハードウェアについて	15	ルーティング・マトリクス	35
マイクプリアンプとライン入力	16	トークバック・ソース	36
楽器入力	17	ミキサープリセット設定の保存と読み込み	37
ファンタム電源スイッチ	17	オーディオ・ループバック	38
-10db PAD	17	ループバックミキサーの使用	39
ハイパスフィルター	18	レコーディング / ストリーミングのループバックソース	39
バランスインサート&リターン	18	出力チャンネルの調整	40
インサートの活用	18	メニュー/タスクバーアイコン	41
パッティングインサート	18	ファームウェアのアップデート	42
ADコンバーターへのダイレクト接続	19	キーボードショートカット	43
入力ブロックダイアグラム	20	DAW セットアップ	
入力スペシフィケーション	20	Pro Tools セットアップ	45
デジタル入出力	21	Logic Pro セットアップ	46
ワードクロック出力	21	Cubase/Nuendo セットアップ	48
スピーカー出力、ヘッドフォン出力	23	Ableton Live セットアップ	50
iDボタン、モニターコントロール、Fキー	24	トラブルシューティング & FAQ	51
メーター、ステータスLED、ケンジントンロック	25	スペシフィケーション	54
		寸法	55
		品質保証に関して	56

iD24 製品概要

安全にご使用頂くための注意



本機の使用を始める前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないよう安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。

その際はまずaudientのサポート株式会社Hotone Japanにコンタクトしてください。

01 マニュアルをよく読んでください。

02 マニュアルを保管しましょう。

03 『注意や警告』を守りましょう。

04 インストラクションには従ってください。

05 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。

06 クリーニングは乾いた布だけ使用してください。

07 ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。

08 本機に接続されているケーブル類にご注意ください。

09 本機と使用するアクセサリー等は、メーカーが認可したものを使用してください。

10 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。

11 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。

製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。

その際はまずサポートの株式会社Hotone Japanにコンタクトしてください。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。



Declaration of Conformities

FCC Part 15B

This apparatus has been tested and found to comply with the limits of a class-A digital device, pursuant to Part 15B of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Re-orient or relocate the receiving antenna
2. Increase the separation between the equipment and receiver
3. Connect the equipment into an outlet on a different circuit from that to which the receiver is connected
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help



We, Audient Ltd, Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944, declare under our sole responsibility that the product iD24 complies with Part 15 of FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference,
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD24, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate CE standards and directives for an audio product designed for consumer use.



We, Audient Ltd, declare that the product, the iD24, to which this declaration relates, is in material conformity with the appropriate UKCA standards and directives for an audio product designed for consumer use.



Audient Ltd has conformed where applicable, to the European Union's Directive EN 63000:2018 on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources

インストール方法

MacOSの場合

推奨動作環境

macOS 10.13.6 (High Sierra) またはそれ以降
Intel CPU またはApple Silicon
メモリ: 空き容量1GB以上

1. 最新のiDアプリをダウンロードする

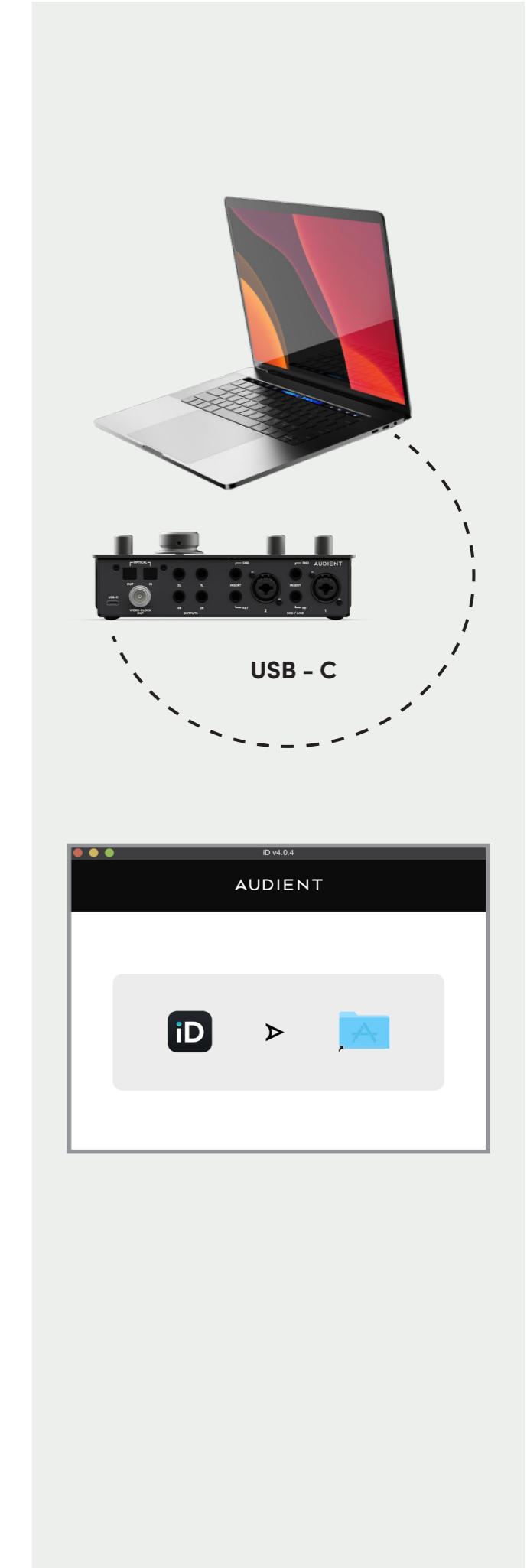
以下のURLからiD Mixerをダウンロードしてください。

audient.com/products/downloads/id24

ダウンロードしたファイルを開き、iDアイコンをドラッグしてアプリケーションフォルダーへ格納してください。

2. iD24本体に接続する

インストールが完了したら、同梱のUSBケーブルで、iD24をコンピューターに接続してください。



MacOSの場合

3. LEDを確認する

コンピューターに接続され、電源がオンになるとiD24のstatus LEDが点灯します。操作中にLEDが消灯している場合は全ての接続を確認してください。



問題が解決しない場合は株式会社Hotone Japanサポートまでお問い合わせください。

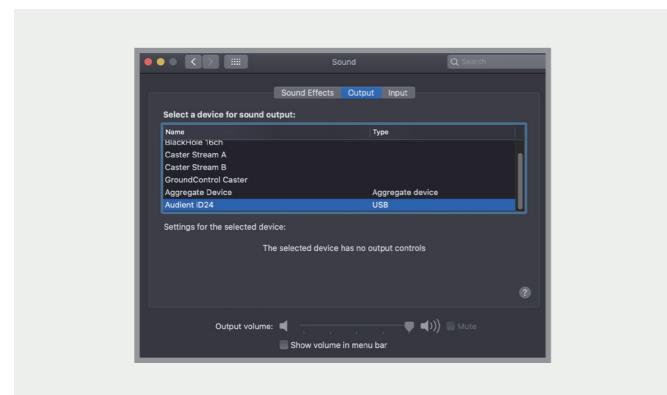
4. 接続の再確認

iD24がコンピューターに正常に接続され、正しいクロックソースがセットアップされているかシステム環境設定からご確認ください。

Macintosh HD > アプリケーション

> システム環境設定

iD24がオーディオデバイスに選ばれているか確認し、システムサウンドは無効にすることをお勧めします。



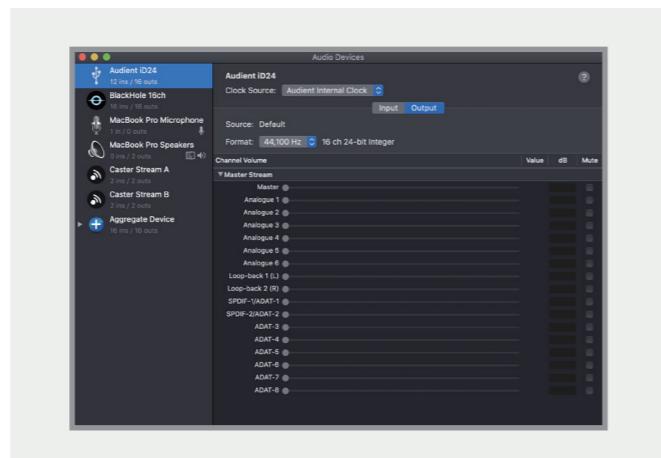
オーディオMIDIセットアップ

Mac HD > アプリケーション > ユーティリティ

> オーディオ

ここでiD24の10入力/14出力が認識されていることを確認できます。

クロックソースはiDアプリで確認できます。



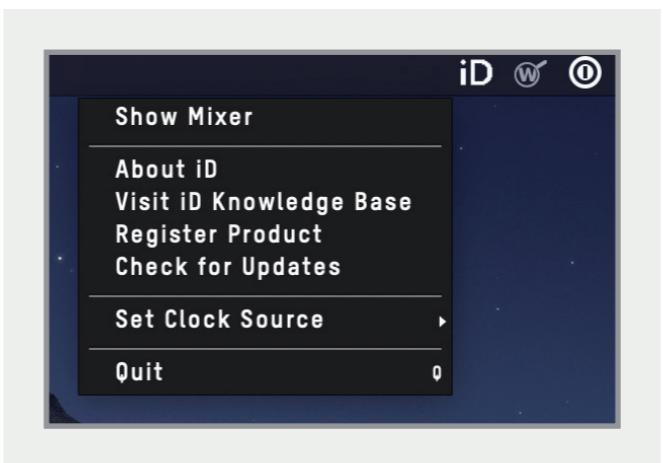
5. iD Mixerを開く

iDアプリを立ち上げてください。

Mac OSのメニューバーにアイコンが現れますので、クリックして「Show Mixer」を選んでください。

メニュー/タスクバーアイコン

MacOSの右上にあるメニューバーにiDアイコンが現れます。ここからiD24のさまざまな機能にアクセスすることができます。



Show Mixer

Mixerウィンドウが非表示になっている場合は前面に表示させることができます。

Quit

iDソフトウェアを完全に閉じることができます。

About iD

iD Mixerアプリとファームウェアの現在のバージョンを表示します。

Visit iD Knowledge Base

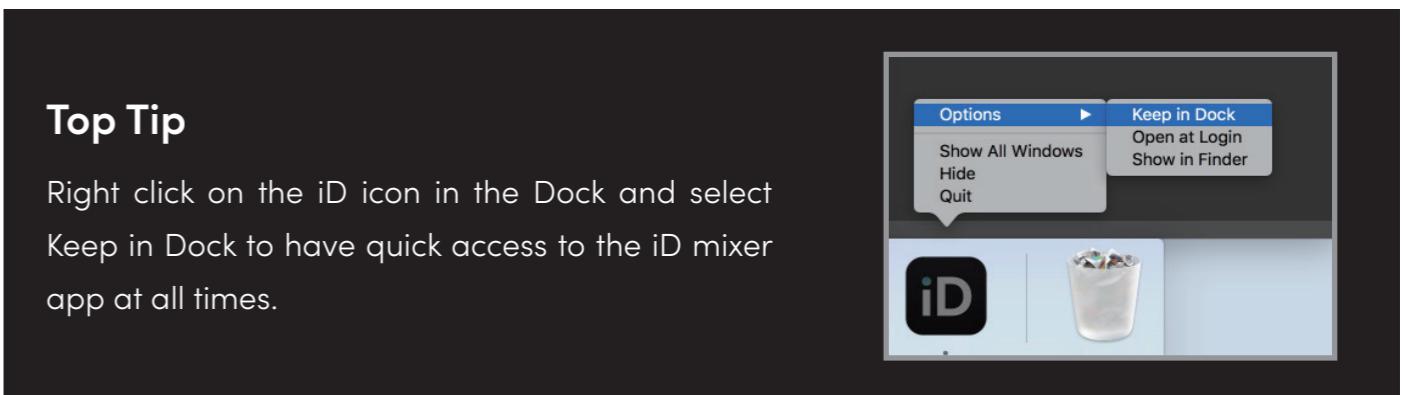
Audientのヘルプデスクを開いて役立つ記事やFAQを見ることができます。(英語ページのみ)

Check for Updates

iD24のiDアプリでファームウェアアップデートの有無をチェックします。

Top Tip

Right click on the iD icon in the Dock and select Keep in Dock to have quick access to the iD mixer app at all times.



Windows の場合

推奨動作環境

Windows 10 またはそれ以降
Intel Core 2 @ 1.6Ghz以上
または同等以上のAMD製CPU
メモリ: 空き容量1GB以上

1. iD24のソフトウェアをダウンロードする

以下のURLからiD Windowsインストーラーをダウンロードしてください。

audient.com/products/downloads/iD24

2. iD24に接続する

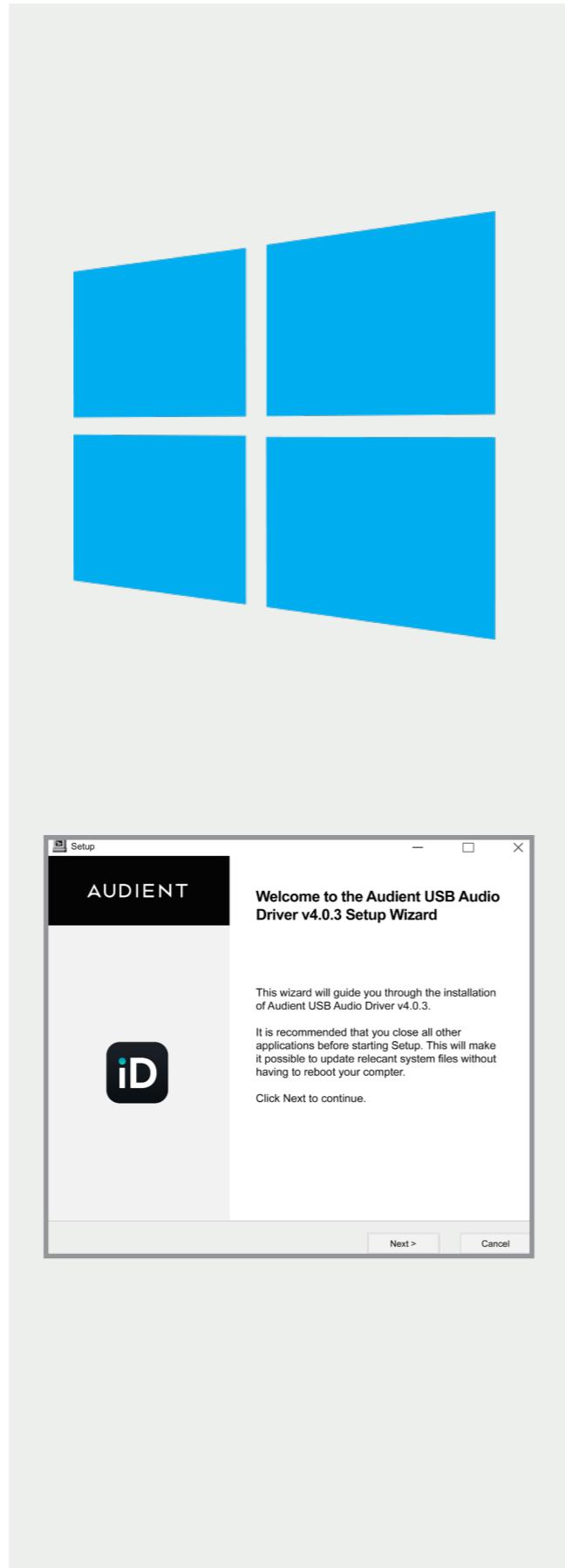
同梱のUSBケーブルでiD24をご自身のコンピューターのUSBポートに接続してください。

3. iD Mixerをセットアップする

iD Mixerをセットアップするにはインストーラーをダブルクリックして立ち上げて画面の指示に従ってください。

4. PCを再起動する

ドライバーのインストールが完了したらご自身のPCを再起動してください。



5. 接続を確認する



iD24が正常に動作したらUSB status LEDが点灯し、作動中は電源が落ちるまで点灯し続けます。

接続をダブルチェックするには、PCのサウンド設定以下の手順でご確認ください。

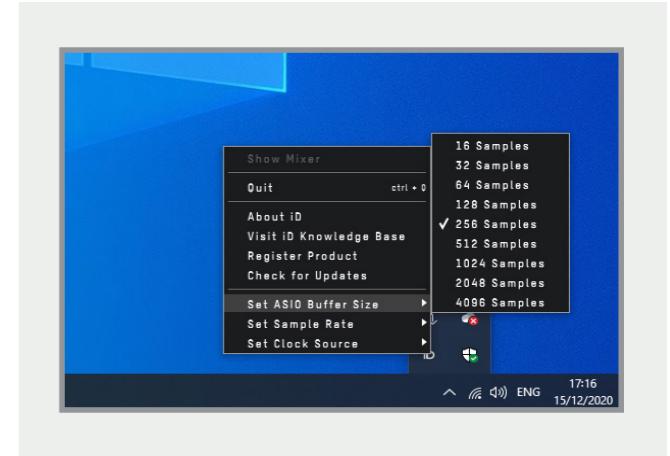
設定 > コントロールパネル >
ハードウェアとサウンド > サウンド

ここで再生と録音タブの両方でiD24を選択し「初期デバイスに設定する」をクリックして設定してください。

iDアイコン

インストールが完了するとiDアイコンがWindowsシステムトレイに現れます。(アイコンが隠れている場合もあります)

- iD24が接続されていれば、アイコンのダブルクリックでiD24 Mixerウィンドウが開きます。
- アイコンを右クリックすると、サンプルレートまたはバッファーサイズの変更やiDソフトウェアを完全に閉じることができます。



ミキシングの場合はバッファーサイズを256に設定すると良いでしょう。トラッキングする場合は、少しバッファーサイズを下げても良いかもしれません。

コンピューターの性能、CPUの負荷状況などさまざまな要因がオーディオの安定性に影響するため、バッファーサイズを調整する必要があります。

バッファーサイズの最適化について、より詳しい情報が知りたい方はサポートサイトをご確認ください。

iDアプリとファームウェアアップデート

iD Mixerアプリを立ち上げる

以下のフォルダからiD24のソフトウェアミキサーAPリを立ち上げてください。

Mac OS

Macintosh HD > アプリケーション > iD

Windows

スタート > すべてのプログラム > Audient > iD

Mac OSでは、画面右上のメニューバーからiDアプリを起動します。アイコンをクリックするとアプリケーションの機能にアクセスできます。

Windows OSでは、多くの場合、画面右下にあるシステムトレイの中から起動します。iDアイコンを右クリックするとアプリケーションの機能にアクセスできます。

アプリについて詳しい情報が知りたい方は
[28ページ](#)をご確認ください。

ファームウェアアップデートを確認する

コンピューターがインターネットにつながっている場合、iDアプリはファームウェアアップデートをチェックします。もし新しいファームウェアアップデートがある場合にはアプリがお知らせします。

また、「Check for Updates」を選ぶと、手動でファームウェアアップデートの有無が確認できます。

AUDIENT ARCの登録について

最初にiD Mixerウィンドウを開くと、Audient ARCに製品登録するか聞かれます。画面の案内に従ってアカウントを作成し、製品を登録してください。

こうすることで革新的なソフトウェアやサービスに自由にアクセスでき、いつでもすぐにレコーディング作業を開始することができます。

製品登録は後から行うことも可能ですが、その場合は登録画面を閉じてください。次回起動時に再度同じ画面が現れます。

ハードウェアについて



マイクプリアンプとライン入力

iD24は2系統のAudientコンソールマイクプリアンプを搭載しています。これはAudientが誇る定番のスタジオコンソールで採用されているマイクプリアンプと同じデザインを元にしており、iDシリーズのインターフェイス全てに搭載されています。

クラスA回路を採用した設計はこの上なく低歪みで低ノイズの性能を誇ります。iD24は音に関しても遅延のないクリアで忠実な解像度をもたらします。

マイクとライン入力用にはAmphenol™ XLR/TRSコンボコネクタージャックを備えています。ライン入力はクリッピングノイズを防ぐためマイクプリアンプから-10dBまで下げることが可能です。



マイクプリアンプ

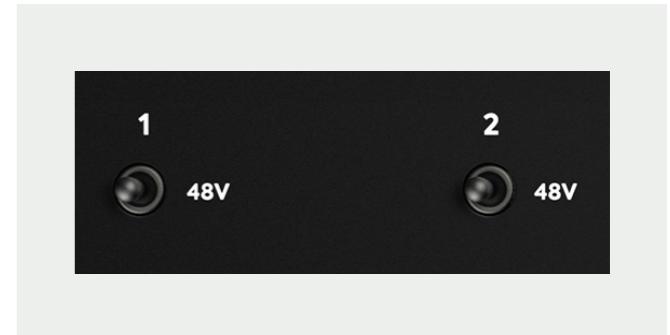
- 58 dBのクリーンゲイン
 - >2.8kΩ 入力インピーダンス
- マイクの種類に関わらずパンチのあるトーンが得られます



楽器入力 (D.I.)

iD24が備えるD.I.端子は、クラスAのディスクリート・デザインを採用したJFET楽器用入力です。JFET回路がギター やベースに豊かさとウォームさをアドオンします。

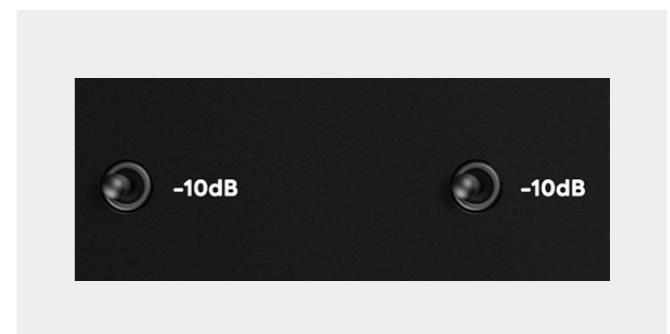
このTS(アンバランス - チップ、スリーブ)ジャックに接続すると、そのチャンネルが本格的な楽器入力となり、その楽器の素晴らしいサウンドを引き出します。



ファンタム電源スイッチ

マイクチャンネルごとに独立したファンタム電源スイッチを備えています。チャンネルに接続されたマイクにファンタム電源が供給されます。(チャンネルごとに 48V ±4v, 10mA)

iD24はXLR接続時のみファンタム電源を供給します。TRSライン入力時にはファンタム電源を供給しません。



-10dBパッド

入力時に切り替え可能なハードウェア -10dB/パッドを備えおり、ドラムなど音量が大きい楽器の録音時に信号レベルを下げるることができます。

インサートの活用



インサートを使用しない時、この入出力回路は直結され、センド/リターンをパッチ接続する必要はありません。

また、インサートはリターンに接続した時のみ信号がカットインされるため、センドから出力される信号をパラレル出力として使用することもできます。

ハイパスフィルター

各プリアンプには、約80Hz未満の周波数を除去するハードウェアハイパスフィルターも備わっています。必要に応じて切り替え可能で、録音から雑音やルームノイズを除去するのに適しています。

バランスインサート&リターン

本機にはAudientのコンソール機器と同様に、両方の入力チャンネルに専用のインサートを備えており、外部機器をインサート接続できます。

2つのチャンネルは、アナログ/デジタル(AD)コンバーターの前に、センド/リターン共にバランス入出力回路を備えています。

お気に入りのハードウェアEQとコンプレッサーをインサート接続すれば、クリーンなAudientプリアンプと組み合わせて、思い描いたクオリティのボーカルチェーンを構築できます。

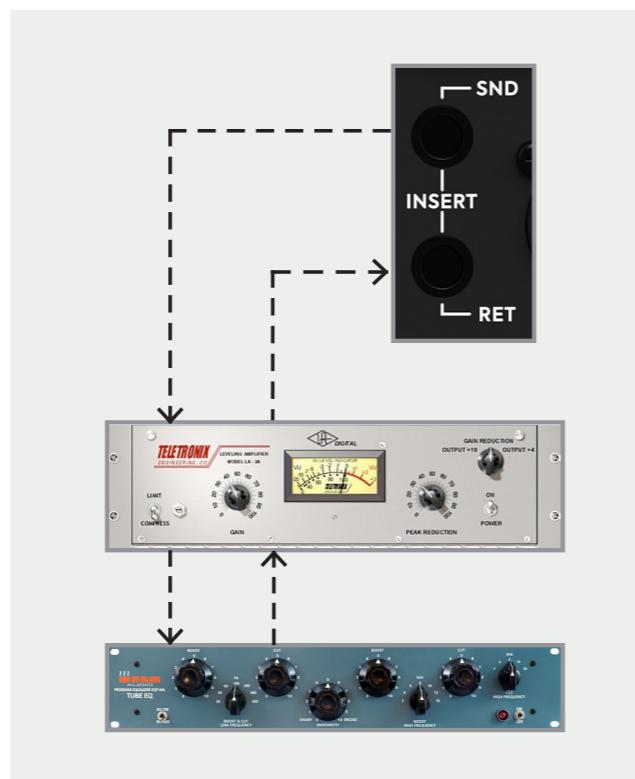


ADコンバーターへのダイレクト接続

RET(リターン)端子への信号は、ダイレクトにADコンバーター回路に入力されます。この入力は、信号経路によるサウンドへの色づけがない、純粋なADコンバーター入力です。

他のマイクプリアンプや外部アウトボードを使用したい場合には、この端子からDAWへ信号入力することをお勧めします。2ミックスをiD24から出力してコンプレッサー等を経由しリターンに戻す、バス・コンプレッションのような使い方も可能です。

キャリブレーションのレベル: 0dBFS=+12.5dBu

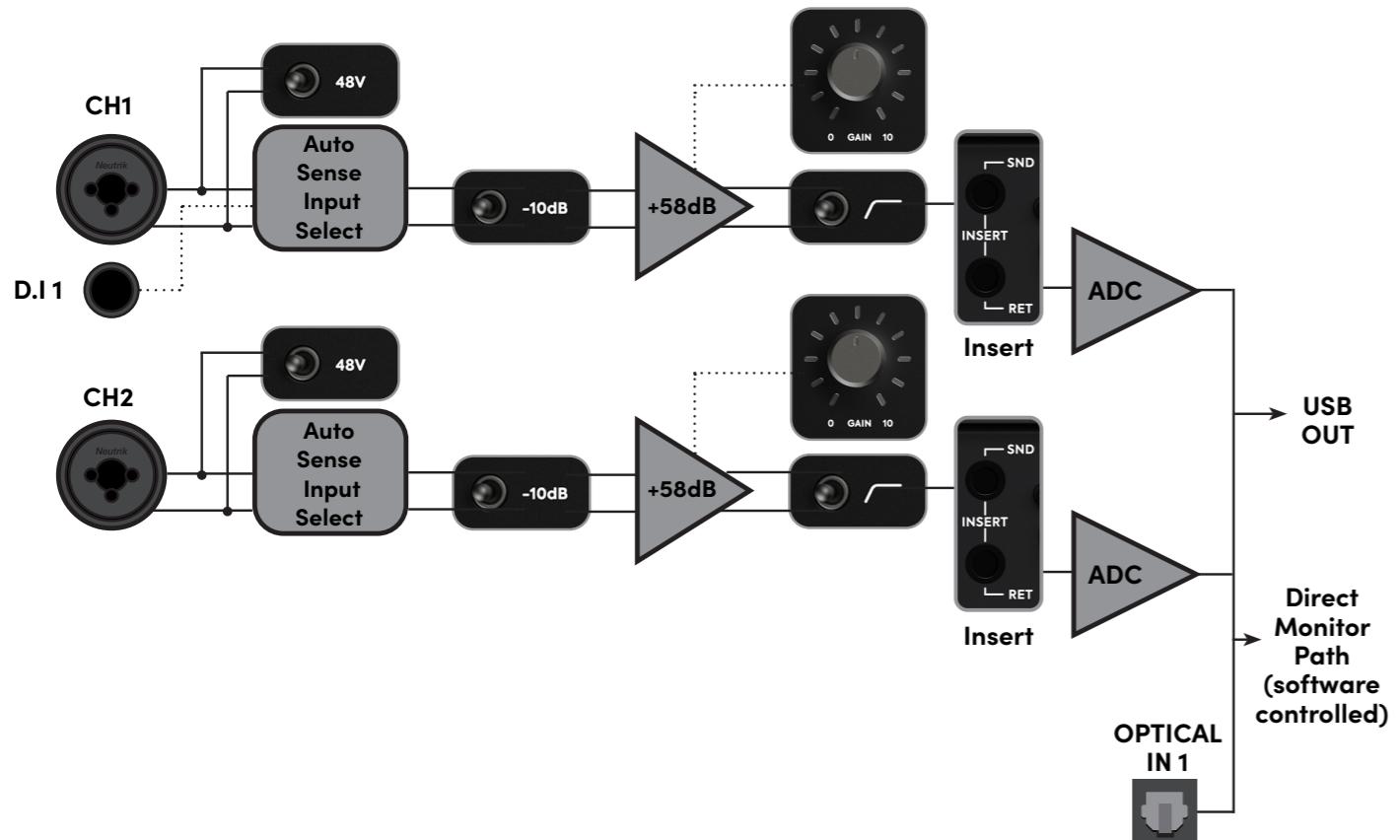


パッチングインサート

変換前に好みのエフェクトなどを組み込むには、iD24インサートセンドをプロセッシングチェーンの最初のギアにパッチします。次に、チェーン最後のデバイスの出力をiD24のインサートリターンにパッチします。

ハードウェアの特徴

マイクプリ、インサート、A/Dコンバーター、
オプティカル入力ブロックダイアグラム



入力スペシフィケーション

Microphone Input

XLR コンボフィーメール
Pin 1: Chassis Ground Pin
Pin 2: Hot (+ve)
Pin 3: Cold (-ve)
入力インピーダンス:>2.8k ohm
最大入力レベル:+12dBu

DI Input

1/4" TS Jack
Tip: Hot (+ve)
Sleeve: Ground
入力インピーダンス:>500K Ohms

Insert Return

1/4" TRS Jack
Tip: Hot (+ve)
Ring: Cold (-ve)
Sleeve: Chassis Ground
入力インピーダンス:>10k ohm
最大入力レベル:+12.5dBu
デジタルリファレンスレベル:0dBFS = +12.5dBU

Line Input

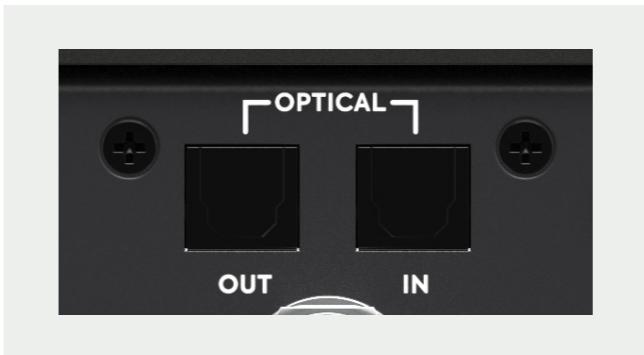
1/4" TRS Combi Jack
Tip: Hot (+ve)
Ring: Cold (-ve)
Sleeve: Chassis Ground
入力インピーダンス:>8k ohm
最大入力レベル:+22dBu

Insert Sends

1/4" TRS Jack
Tip: Hot (+ve)
Ring: Cold (-ve)
Sleeve: Chassis Ground
出力インピーダンス:>100 ohm
最大入力レベル:+22dBu

Optical Inputs

TOSLink オプティカルコネクター
ADAT: 8 channels @ 48kHz
ADAT SMUX: 4 channels @ 96kHz
S/PDIF: 2 Channels @ All sample rates



デジタル入出力

iD24には、2系統のオプティカルのデジタル入出力が搭載されています。各デジタル端子はADAT (最大8ch) とS/PDIF (2ch) どちらにでも使用できます。

切替えは「iDソフトウェアミキサー」から行います。両フォーマットとも最大サンプルレートは96kHzですが、ADATは88.2kHz/96kHzでの使用時には半分の4チャンネルに限定されます。S/PDIFモードでは、外部デジタル機器との接続や2チャンネルのオーディオ入出力として使用できます。

最高サンプリングレートは96kHzです。ADATモードでは、Audient ASP800やevo SP8のような外部プリアンプを接続して、最大24入力のレコーディングが可能です。ADAT出力は、Hearback™ systemのようなADAT入力を備えたヘッドフォン分配システムや8チャンネルDACへの接続も可能です。88.2kHzまたは96kHzのハイサンプルレートでは、ADATプロトコルの限界から入出力がそれぞれ4チャンネルに限定されます。

オプティカル出力のルーティングは、iDミキサーのルーティングマトリクス (Routing Matrix) セクションをご覧ください。

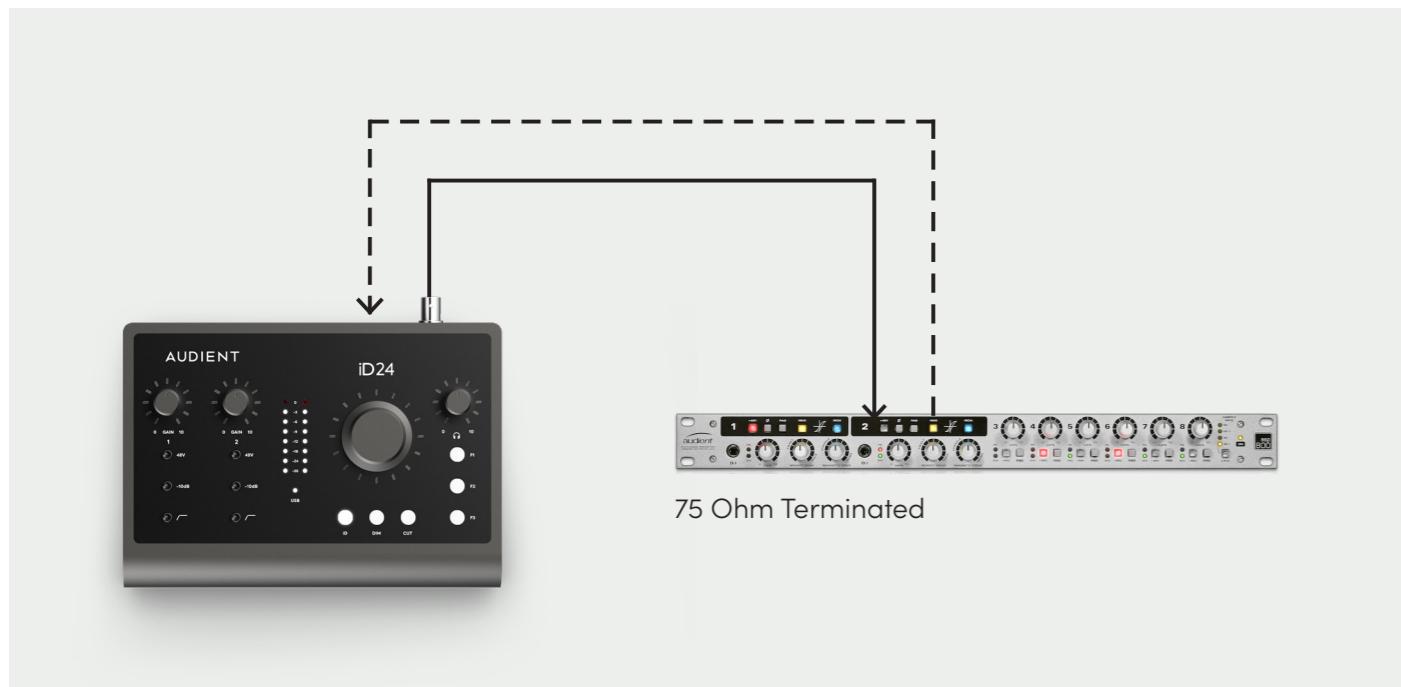


ワードクロック出力

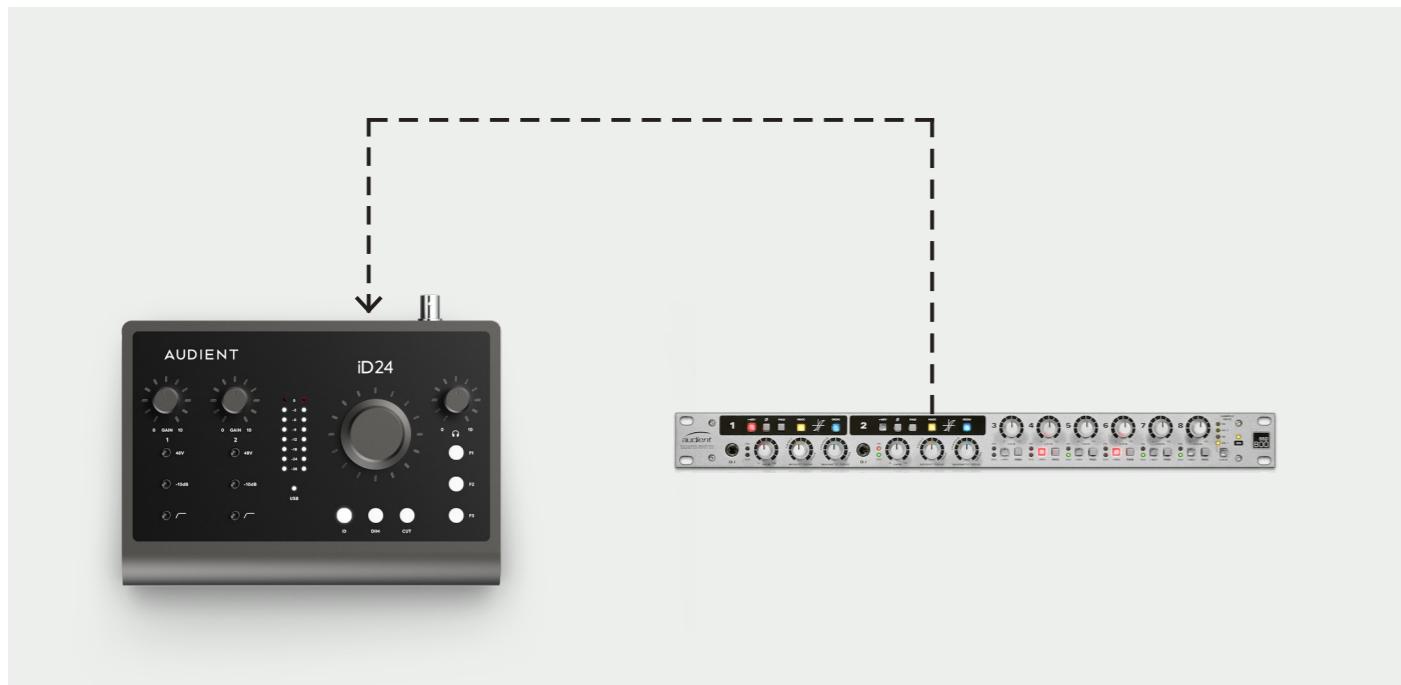
iD24は、複数のデジタル機器のクロックを統制するために便利なBNC出力端子を装備しています。この出力からは、本機動作中のサンプルレート(44.1、48、88.2、96kHz)と同じクロック信号が出力されます。内部と外部クロック、どちらも同クロックが出力されます。

ハードウェアの特徴

単一BNC接続



オプティカルポートでクロックを受ける



→ Optical TOSlink Cable

→ BNC Word Clock Cable



スピーカー出力

iD24には2組のモニターに接続できるTRSバランス出力端子があります。これらの出力は、Audientのフラッグシップ・コンソールASP8024のインピーダンス・バランステクノロジーを採用しました。

これらの出力からは高品位のDAC（デジタル/アナログ・コンバーター）を経由し、クリアでリニアなサウンドをモニタリングできます。

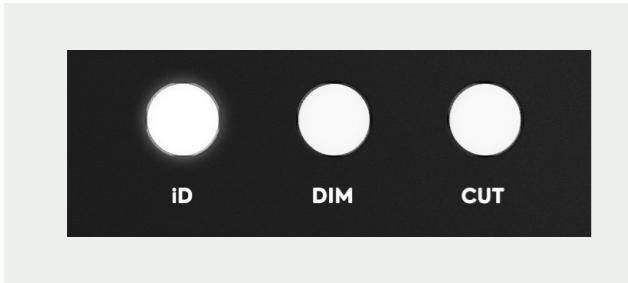
スピーカーでのモニター以外でも例えば、複数のミュージシャンそれぞれに専用のヘッドフォン・アンプを使用したい場合に最適です。1つまたは複数の出力を使用でき、iD Mixerで調整可能です。



ヘッドフォン出力

iD24には、独立DACを備えた高電流型ヘッドフォン・アンプを搭載しています。3.5mmと6.35mmの両サイズのジャックを備え、同信号が同時に出力可能のため、一人でのミキシング作業だけでなくレコーディング時にアーティストがもう1つのヘッドフォンで確認することも可能です。

これらの出力は広いレンジのヘッドフォン・インピーダンスに対応でき、様々な機種のヘッドフォンで高品位なサウンド・モニタリングが可能です。



iD ボタン

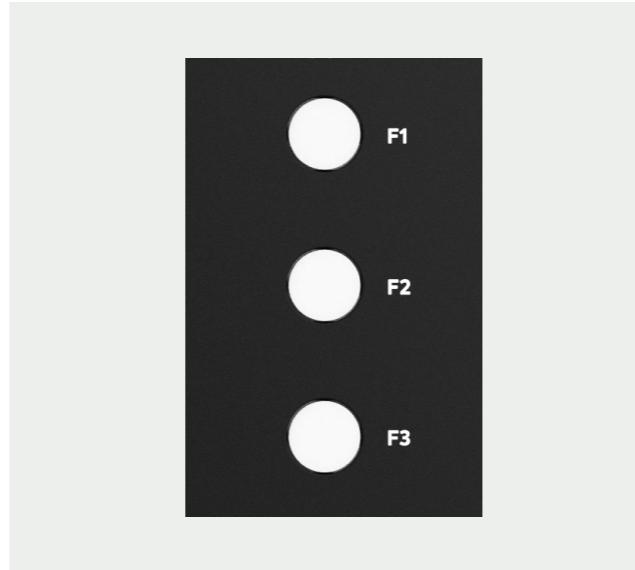
iDボタンを使えば、iD24の実力をフルに発揮できる「Scroll Control」機能をフル活用できます。エンコーダーが仮想スクロールホイールとして、DAWまたはプラグイン内で互換性のあるスクロール可能なパラメーターを制御できるようになります。

DAWのスクロール可能なパラメーターにマウスを合わせ、インターフェイスのエンコーダーを回してそのパラメーターを調整します。ただしスクロールホイールの機能はDAWに依存しており、ご使用のDAWによって動作が異なりますのでご注意ください。

モニターコントロール

iD24は、大型のアルミ製モニターコントロールとは別に、ヘッドフォンのボリュームコントロールが可能なモニターコントロールを備えています。

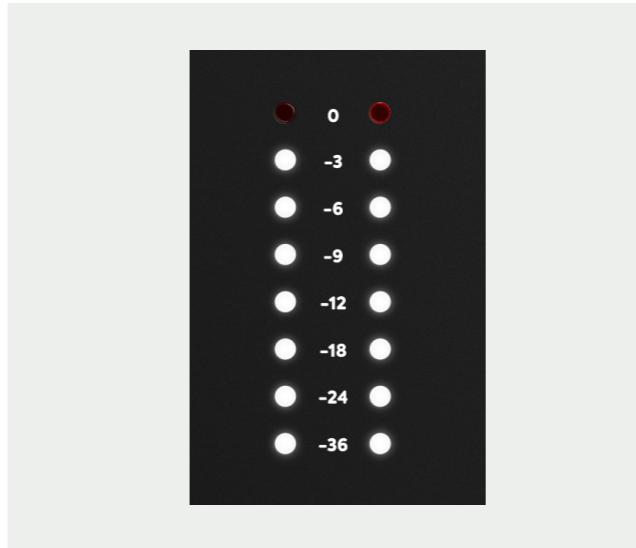
また、設定した音量だけレベルを下げるDIMや、スピーカー出力を完全にミュートするCUTボタンもあります。



Fキー

F1、F2、F3はファンクションキーで、iD Mixerにある様々なモニタリング機能に割り当て可能です。

Fキーに機能を割り当てる方法は、[31ページ](#)を参照してください。



ハードウェアメータリング

8つのハードウェアメーターは、iD Mixerのメインモニタリングミックスの再生レベルを示します。



ステータス LED

USBケーブルでコンピューターに接続するとstatus LEDが点灯し、iD24とコンピューター間の通信が安定していることを意味します。



ケンジントンロック

iD24を学校やその他の公共の場での利用を想定して、盗難を防ぐロック用のケンジントンロック穴を設けました。

ソフトウェアの特徴

入力チャンネル - チャンネルの種類

iD Mixerアプリケーションには3タイプの入力があります。

Mic入力

信号が入力される2つのアナログ入力

デジタル入力

オプティカル端子に入力された信号。

入力の数は、ADATまたはS/PDIF、そのサンプルレートによって変わります。

DAWリターン

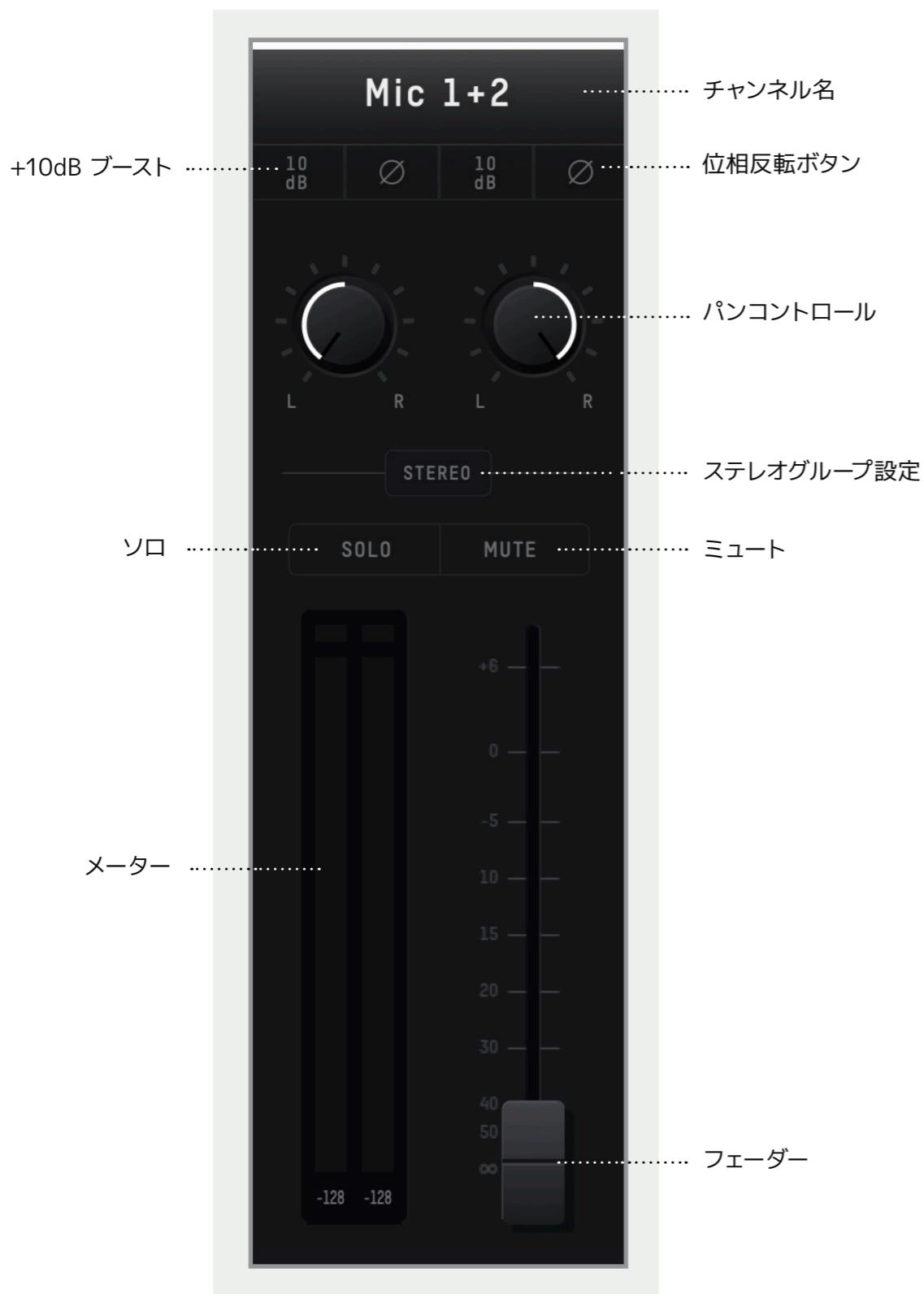
DAWから出力される6チャネルのミックスです。

iD24は6チャネルのリターン設定が可能で、Cueミックスや外部機器へのセンドに使用できます。

これら3つのチャネルタイプを使用して、メインのモニターミックスと最大2つの追加のCueミックスを構築できます。

iD MixerはiD24のモニタリングのみコントロールするため、iD Mixerに加えられた変更は、DAWまたはオーディオソフトウェアには影響しません。ご注意ください。

チャンネルの機能



チャンネル名

ダブルクリックすると、iD Mixer上でチャンネル名の変更ができます。例えば、「ドラム録音」の場合、「キック」「スネア」など個別に名前を付けることが可能です。

+10dBブースト

小さい音のソースを録音する際に入力信号を +10dB ブーストします。DAWに送られる信号も同様にブーストされます。

位相切替

ステレオ信号の片サイドの位相を反転します。ギター アンプの背面やスネアドラムの下側にマイキングする場合に便利です。

パン コントロール

メインモニターミックスまたはCueミックスでオーディオを左右、またはその中間の位置に定位を振ることができます。

ステレオグループ化

両隣のチャンネルをステレオリンクして1つのフェーダーでコントロールできます。パンは自動的にL&R に定位します。

ソロ

ソロボタンを押すと、選択したチャンネル以外すべてのチャンネルがミュートされます。複数のチャンネルに一括でソロ機能を使うこともできます。

ミュート

選択されたチャンネルがミュートされます。

フェーダー

ミックスへ送る信号量を調整します。

可変範囲: -∞ ~ +6dB

メーター

信号レベルをdBFS表示します。ピークホールド機能により、一度信号がピーク(0dBFS)に達すると、ピーク表示が点灯し続けます。また、Alt+クリックで全てのトラックのピーク表示を一度にリセット可能です。

マスターセクションの機能



チャンネルの特徴

ミックスセレクション

ミックスタブから1つを選択すると、ミックスを変更することができます。ミックスが選択されると、そのミックスのコントローラーが表示されます。

Cueミックス名

ダブルクリックすると、Cueミックス名が変更できます。例えば、バンドメンバー毎にCueミックスを作成した場合、「ギタリスト」「ドラマー」など個別に名前を付けることができます。

ミックスソロ

SOLO選択されたミックス以外が全てミュートされます。複数の同時SOLO設定も可能です。

キューミックス レベル

出力に送られるCueミックスのレベルをコントロールします。

ミックスメーター

選択されたMixのレベルを表示します。

クロノメーター

数秒前までの信号レベルを表示します。特定のミックスで発生したピークの検知や、レベルの調整に便利です。

チャンネルビュー

ミキサーに表示される3チャンネルタイプをボタンで切り替えられます。例：デジタル入出力を使用していない場合は、OPTICALをオフにすると「デジタル入力」がミキサー上から消えます。

メインミックスボリューム

マスターセクションに装備されたスクロールノブで、スピーカーに送信されるメインミックスの音量を調整します。本体のエンコーダーと動作がリンクしています。

モニターコントロール

これら6つのボタンで6種類のモニター機能が選択できます。

- **TB (トークバック)**

トークバックのオン/オフボタンです。様々なトークバック設定は、本マニュアルの System Panel (システムパネル) セクションをご覧ください。

- **Ø (位相切替)**

ステレオ信号の片サイドの位相を反転します。モノボタンと併用すると、センター定位を排除してミックスの問題点を探し出すことができます。

• MONO (モノ)

ステレオ出力をモノ信号にサミングします。ミックスのモノ再生の互換性が素早く確認できます。

• ALT (オルタナティブ)

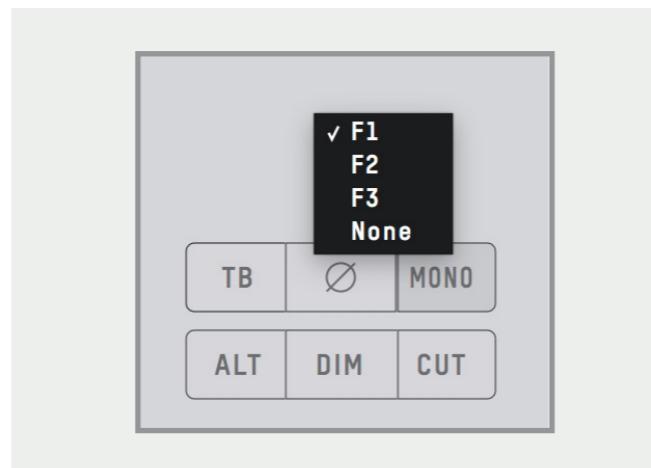
ALTモニタースピーカーに切り替わり、他のスピーカーで再生されるサウンドが確認できます。System Panel (システムパネル) で、ALTスイッチの切り替え先が指定できます。

• DIM (ディム)

先に設定した減衰出力信号レベルへ切り替えます。セッション中に音声を下げたい時に便利な機能です。

• CUT (カット)

モニター (メインミックス) 信号をミュートします。



Fキーのアサイン

iD Mixerアプリの様々な機能をFキーにアサインして、素早く切り替えが実行できます。

Fキーへのモニターコントロールのアサインは、右クリックでFキーを選びます。

システムパネル機能

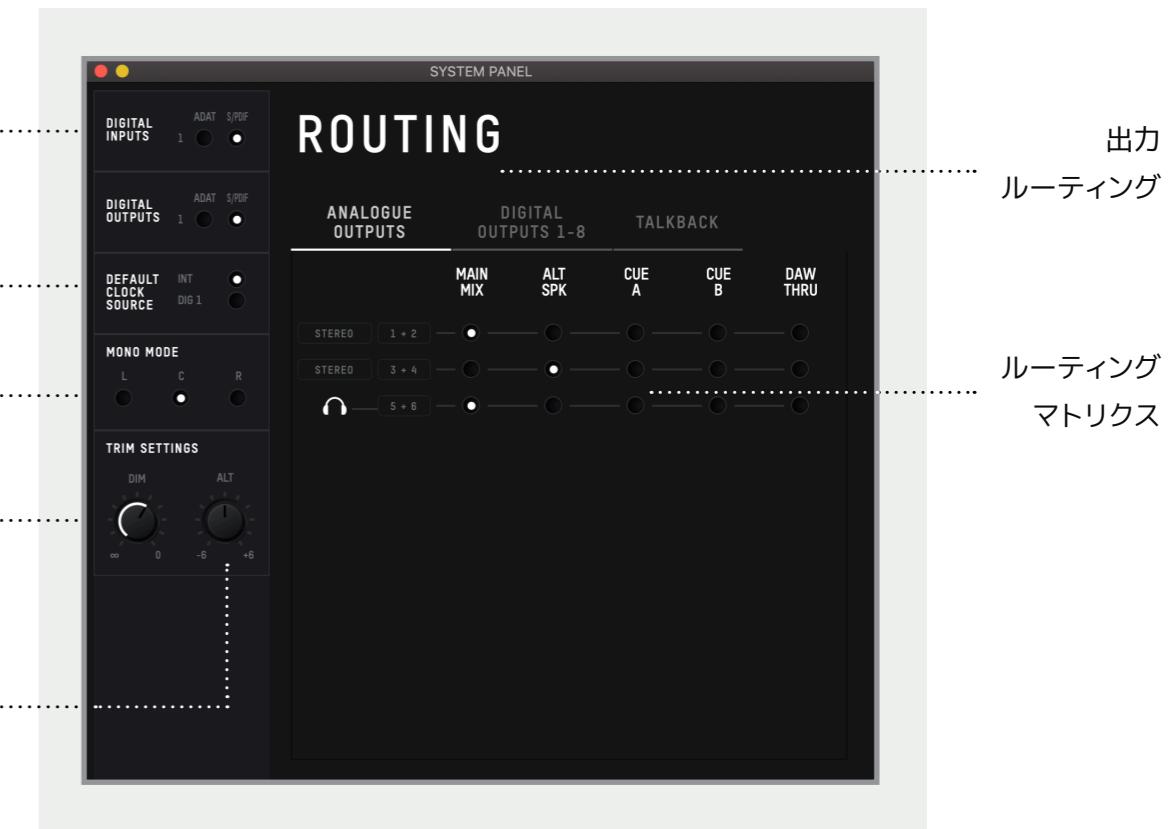
デジタル I/O
フォーマット

クロックソースの
選択

モノラル・モード

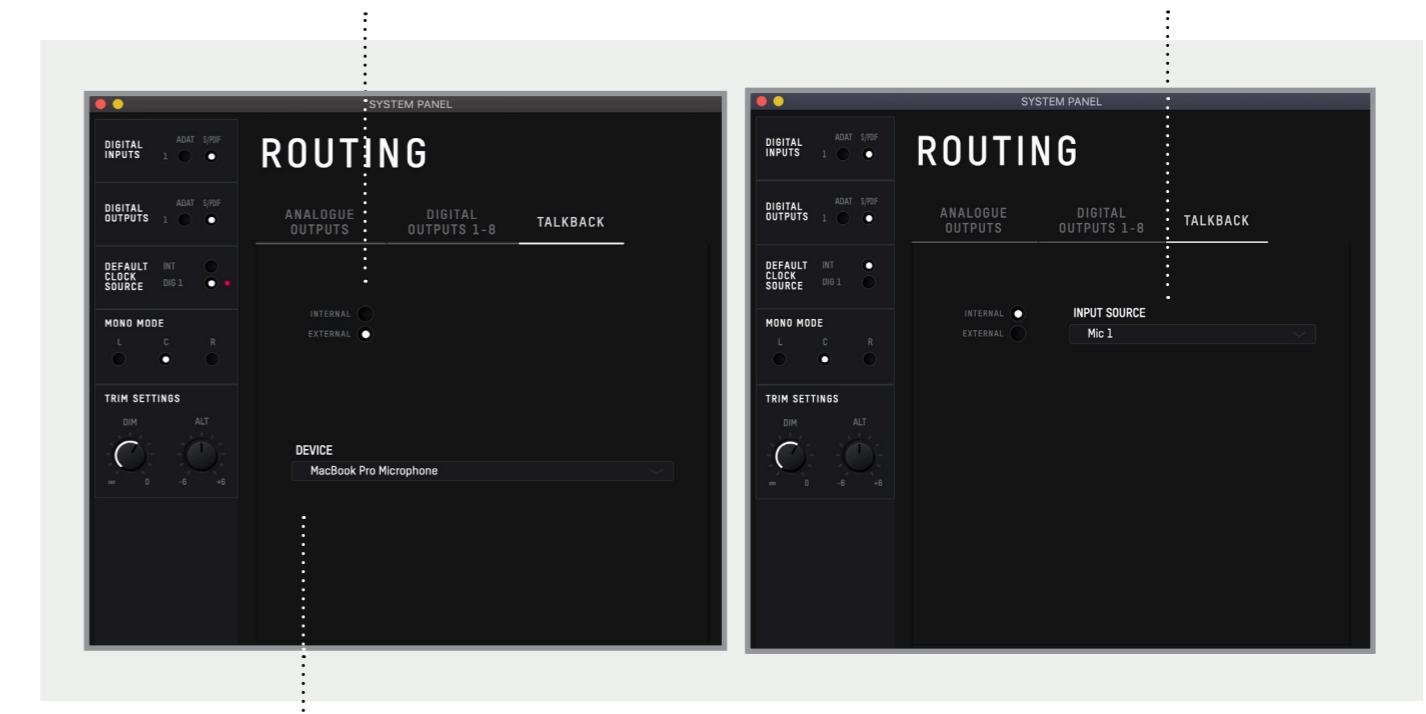
Dim レベル

Alt スピーカー
レベル



トーカック
ソース

入力ソース



トーカック
デバイス

システムパネル機能

デジタルI/Oフォーマット

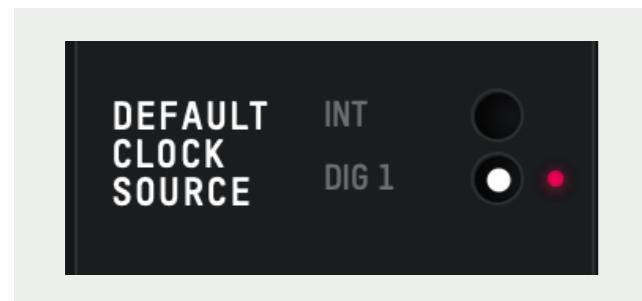
各オプティカル入出力を、ADATまたはS/PDIFいずれかのデジタルフォーマットに選択できます。

クロックソースの選択

クロックのソースを「内部クロック (INTERNAL)」または「外部クロック (OPTICAL)」から選択します。

詳しい内容は、マニュアル中のクロックセクションで説明しています。

外部クロックを使用している場合は、クロックインのステータスをインジケーターで表示します。



- レッド: クロック信号が認識できない。
- オレンジ: クロック信号を認識しているが、サンプルレートが一致していない。
- グリーン: サンプルレートが一致し、正常な同期が確立されている。

外部クロックが正しく動作するには、この表示がグリーン点灯していることが必要です。グリーン表示でない場合は、iD24は正しいクロックを受けるまでデフォルトの内部クロックに切り替わります。

モノラル・モード

このモードではモノ信号がL、R、または両チャンネルのスピーカーに送られます。

Dimレベル

iD24のDimボタンが押されたときの減衰レベルを設定します。

ALT スピーカーレベル

ALTで切り替えられた時の出力レベルを設定します。異なるメーカーのスピーカー間のレベル差の調整を行います。

出力ルーティング

アナログ出力、デジタル出力、またはトーカバックチャネルヘルーティングするマトリクスを開きます。

ルーティング マトリクス

iD24の出力へ各オーディオソースを選択できるオプションです。

- Main Mix (メインミックス)** - iD Mixerソフトウェアのマスターミックスから信号を出力します。これがスタンダードなプレイバック設定です。
- ALT (オルタナティブ)** - ALTスピーカーが選択されている時だけマスターミックスから信号を出力します。
- Cue A, B** - iD Mixerソフトウェアミキサーで作った2つのcueミックスから出力できます。ハードウェアのボリュームコントロールはCueミックスには動作しません。Cueミックスレベルの調整はMain Mixer Windowで行います。



- DAW THRU** - DAWからの信号をそのまま出力ヘルーティングできるオプションです。例えば、アナログ出力1+2をDAW THRUヘルーティングすると、DAWからの出力1+2はダイレクトにアナログ出力へ送られます。

DAW THRU使用の注意点: この設定はボリュームコントロールをバイパスし、フルスケールの信号を出力へ送ります。スピーカー再生する際は、出力からインラインのアッテネート使用を推奨します。(スピーカー再生が大音量になり、モニタースピーカーを損傷する恐れがあります。)

ただし、DAW THRUでヘッドフォン出力へのアサインはできません。

トークバック・ソース

トークバック・ソースは、iD24内の信号の1つ、またはホストコンピューターに接続されている機器（内蔵マイク、USBマイク）をトークバック入力へソースとしてフィードできます。

1つの入力をトークバック・チャンネルに選ぶと、iD Mixerのチャンネル・ストリップは、センターにTBボタンがあるトークバック・チャンネルに変わります。外部機器を使う場合は、トークバック信号はチャンネルDAW6に現れます。

トークバックは、該当のチャンネル上のTBボタン、またはマスターセクションのTBボタンを押すか、TB機能に割り当てられているFキーによってオン/オフにすることができます。

トークバックの音はメインスピーカーから再生したくないため、CUEミックスにのみ送信されます。そのため、トークバックチャンネルのフェーダーはメインミックスには表示されず、Cueミックスのみに表示されます。

トークバックデバイス

外部機器が選択されると、使用するデバイスが選べます。



ミキサー・プリセット設定の保存と読み込み

再度使いたいiDミキサー設定がある場合は、プリセットとして保存できます。保存した設定をリコールして、スピーディーに異なるセッションに対応できます。

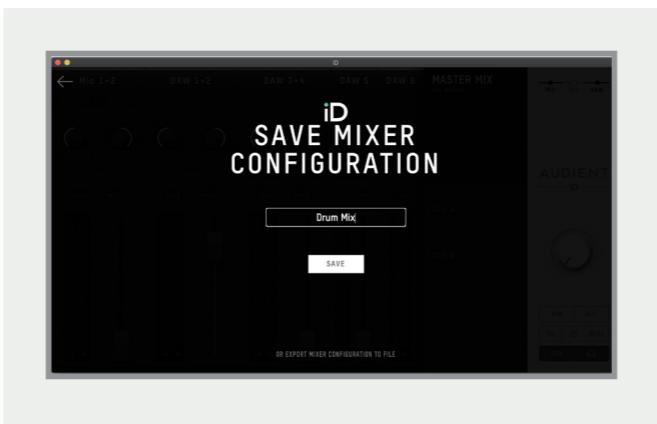
ミキサー・プリセットは、2つの方法でセーブとロードが行えます。

- ファイルメニューからSaveまたはOpenを選択します。
- 以下のキーボード・ショートカットを使います。

Save:	Mac -	Cmd + S
	Windows -	Ctrl + S
Load:	Mac -	Cmd + O
	Windows -	Ctrl + O

プリセットの保存

プリセットの保存はFile→Saveで行います。ミキサーウィンドウは図のように保存のダイアログが表示されます。



プリセット名を入力して**save**をクリックします。

他のコンピューターまたは他のiD24ユーザーへプリセットを送る場合は、DAWセッションファイルに保存します。その方法は、Saveスクリーンにある**Export Mixer Configuration**をクリックします。

ミキサー設定をロードする

以前に保存したプリセットのロードは、File→Openでロードスクリーンを開きます。

以前に保存したプリセットはリストに表示されます。ロードしたいプリセットを選び、Loadをクリックします。

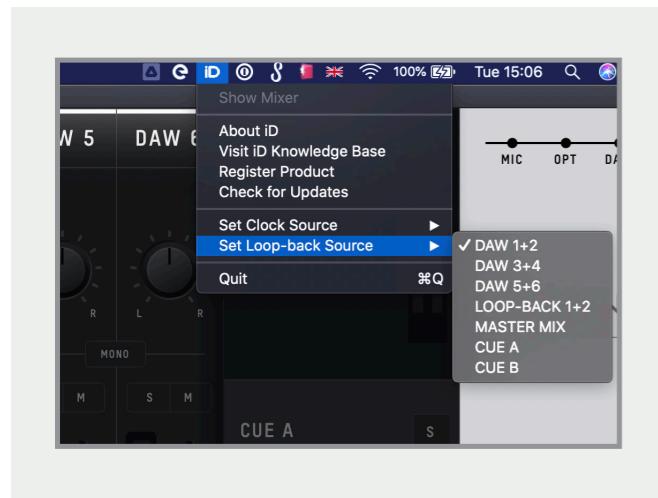
mixer configurationを開いてLoad From Fileを選んでファイルをロードすることもできます。



オーディオ・ループバック

- iD24のミキサーAPリにはループバック機能があります。専用のループバックチャンネルを使用し、コンピューター上のさまざまなアプリケーションからオーディオを録音またはストリーミングできます。
- iD Mixerを使用する場合、ループバックは入力チャンネル 11+12 に設定され、メニューバーにある **Setup**メニューの **Input Routing**オプションから、ループバックチャンネルに送信するオーディオソースを選択できます。

macOSの場合



Windows OSの場合



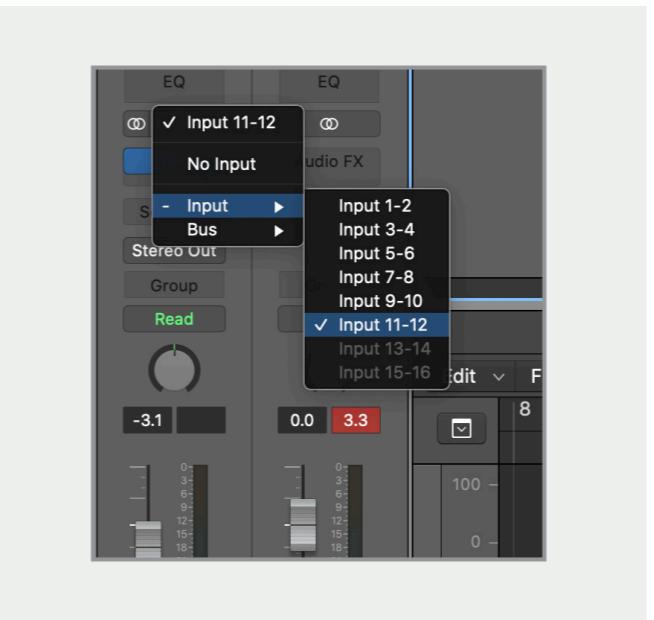
選択可能なソースは以下の通りです。

- **DAW 1+2** - iD24のoutput1+2へ送られる全てのオーディオ
- **DAW 3+4** - iD24のoutput3+4へ送られる全てのオーディオ
- **DAW 5+6** - iD24のoutput5+6へ送られる全てのオーディオ
- **Master Mix** - Main Mix/パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue A** - CUE A パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ
- **Cue B** - CUE B パネルのiD mixerでミックスされたオーディオ

ループバックミキサーの使用

録音やストリーミングするためのループバックミックスは、まずオーディオソフトの入力チャンネルからループバックチャンネルを選びます。使用されているソフトにもよりますが、それらはループバック1+2または入力11+12に割り当てられます。

たとえば、下の画像はLogic Pro Xでループバック入力を選択した場合の画面です。同様のプロセスが他のソフトウェアでも使用されます。オーディオソフトウェアの入力を調整する方法がわからない場合は、ソフトウェアのユーザーマニュアルを参照することをお勧めします。



Windowsでは、システム設定でオーディオデバイスをアナログ1+2からループバック1+2に変更する必要があります。

注意:一部のソフトウェアでは、使用している入力チャンネルを変更できず、デフォルトでチャンネル1+2に設定されます。ソフトウェアの制限によってチャンネル11+12を選択できず、ループバックを使用できない場合もあります。

レコーディング/ストリーミングのループバックソース

ループバックソースをレコーディング/ストリーミングソフトでループバック入力として選択したら、iD Mixerでループバックをセットアップします。

まず、第一ステップはループバックストリームで使うソースを決めます。コンピューターからの信号とマイク/インストを1つのミックスにまとめ、メインミックスかCueミックスへ送ります。これが、各チャンネルのフェーダーを操作できるもっとも良い方法と言えます。

図のように、Mic 1&DAW 1+2がCUE Aミックスに送られ、ループバックソースとして使われています。このセットアップをレコーディングすると、Micチャンネルとコンピューター・プレイバックが1つのステレオチャンネルとして聴こえます。



もし、マイク信号なしで、コンピューターからのオーディオのみを聴きたい時は、DAWチャンネルからオーディオソースを選びます。

チャンネルまたはミックスをループバックソースとして選ぶ場合は、ループバックがどこから送られてきているか確認できるように、小さなループバックアイコンがchannel/mixの上に現れます。



出力チャンネルの調整

ループバックミックスをセットアップする際、メインモニターミックス (Main Monitor Mix、通常=DAW 1+2) と一緒にならないように、DAW 3+4、DAW 5+6へ出力をアサインします。

ほとんどのDAWソフトでは、新たな出力センドや出力チャンネルが作れます。ユーザーマニュアル等で詳しい方法をご確認ください。

Media PlayersやVideo callsなどのアプリでは、出力チャンネルを調整するオプションは無いため、OS側のセッティングを変更する必要があります。

スタートメニュー (Start menu) を開いて、セッティング (Settings) を選択します。
System → Sound → Sound Control Panelの順に進み、“Output Device”ドロップダウンメニューから使いたいチャンネルを選びます。

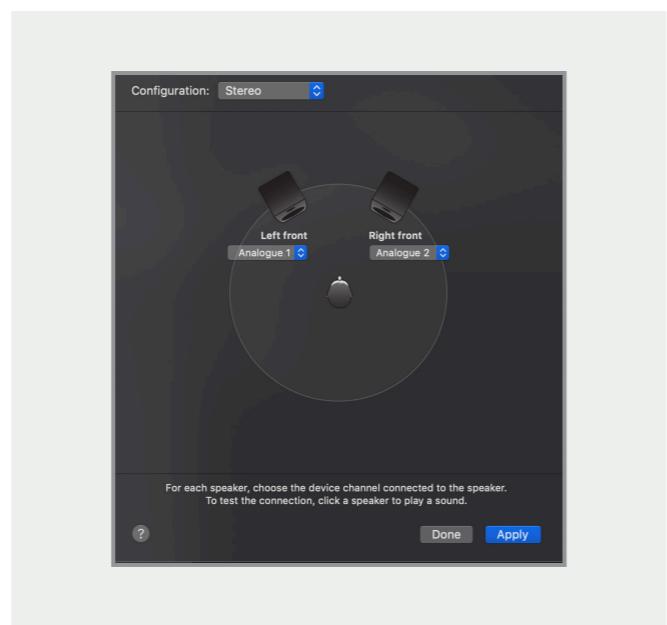
MacOSと同じように、出力チャンネルとDAW出力との関係はChannels 3+4 = DAW 3+4、Channels 5+6 = DAW 5+6...etcです。

macOSの場合

Finderを開き、アプリケーション → ユーティリティ
→ **Audio MIDI設定**とアクセスします。オーディオ装置内のデバイスリストからiD24を選びます。

出力タブを選び、“スピーカーを構成”をクリックします。ここで、iD24のL&R出力が決められます。

出力チャンネルとDAW出力との関係はChannels 3+4 = DAW 3+4、Channels 5+6 = DAW 5+6...となります。



Windowsの場合

スタートメニュー (Start menu) を開いて、セッティング (Settings) を選択します。

System → Sound → Sound Control Panelの順に進み、“Output Device”ドロップダウンメニューから使いたいチャンネルを選びます。

MacOSと同じように、出力チャンネルとDAW出力との関係はChannels 3+4 = DAW 3+4、Channels 5+6 = DAW 5+6...etcです。

メニュー/タスクバーアイコン

MacOS

MacOSでは、右上にあるメニューバーに「iD」アイコンが表示されます。そこから「iD Mixer」の数々の機能へアクセスできます。



Show Mixer

ミキサーワンドウが表示されていない場合は、ここから開くことができます。iD24とコンピューターが接続されていないとiD Mixerを開くことはできません。

About iD

iDミキサーとファームウェアの現バージョンが確認できます。

Visit iD Knowledge Base

Audient Helpdeskから、ヘルプやFAQが確認できます。(英語サイト)

Register Product

登録画面が開くと、初期設定の一部として製品をAudient ARCに登録していない場合のみ登録できます。

Set Clock Source

内部と外部のクロックソースを素早くリンクさせます。

Set Loopback Source

ループバックオーディオの入力に、どのOutput ChannelまたはMixを送信するか選びます。

Check for Updates

Audient update serverにアクセスして、iD24ファームウェアのアップデートが確認できます。

Quit

iDアプリを完全に終了します。

Windows

Windowsのタスクバーアイコンには、MacOSメニューと同様のオプションと、Windowsスペシャルオプションがあります。



Set Sample Rate

44.1、48、88.2、96kHzからiD24のサンプルレートをセットします。

Set ASIO Buffer Size

バッファーサイズを16~4096サンプルの間で決定します。高いサイズ設定ほどコンピューターへの負荷が下がりますが、レイテンシーは増加します。

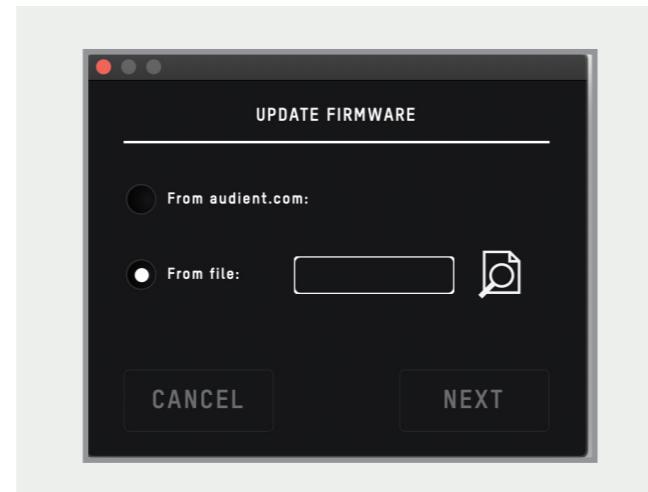
ファームウェアのアップデート

機能の追加や改善、バグ修正のために、ファームウェアのアップデートを行う場合があります。定期的にファームウェアの更新状況をチェックすることをお勧めします。

ホストコンピューターをインターネットに接続して、MacはMenuバー、Windowsはシステムトレイへ行き、**Check for Updates (アップデートのチェック)** を選びます。

iD Mixerアプリは自動的にaudient.comでアップデートをチェックします。新たなファームウェアがあれば、即座にインストールをお勧めします。

Nextをクリックすると、iD24経由の再生を止めるリクエストが出ます。**Update**をクリックするとアップデートが始まります。アップデート中に本機が何度もリスタートされることがあります。



Keyboard Shortcuts

キーボードショートカット

以下がiD Mixerアプリのショートカットテーブルです。

Location	Mac	Windows	Description
Faders	Alt + Click	Alt + Click	フェーダーをユニティーゲインヘリセット (0dB)
Pans	Alt + Click	Alt + Click	パンポットをセンターへリセット
Solos	Cmd + Click	Ctrl + Click	全てのソロチャンネルをクリア
Meters	Alt + Click	Alt + Click	ソロ設定されていないチャンネルをクリックすると、全てのソロが無効になります。
System Panel	Cmd + S	Ctrl + S	ミキサー設定をセーブ
	Cmd + O	Ctrl + O	ミキサー設定をロード
View Modes	Cmd + 1	Ctrl + 1	Mic/Line入力を表示
	Cmd + 2	Ctrl + 2	Optical (Digital) 入力を表示
	Cmd + 3	Ctrl + 3	DAWミックス入力を表示
	Cmd + 4	Ctrl + 4	Systemパネルを表示

最新アプリをチェックしてください。告知なしにショートカットが追加される場合があります。

audient.com/products/iD24

DAW セットアップ



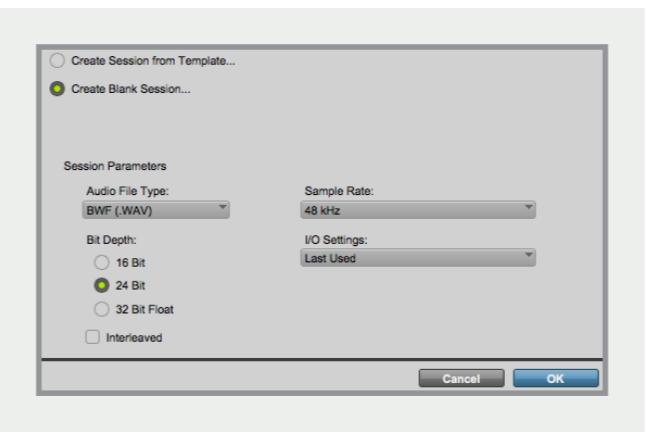
Pro Tools セットアップ

Pro Tools セットアップ

Windowsの場合は、[12ページ](#)のインストール手順に従っていることを確認してください。

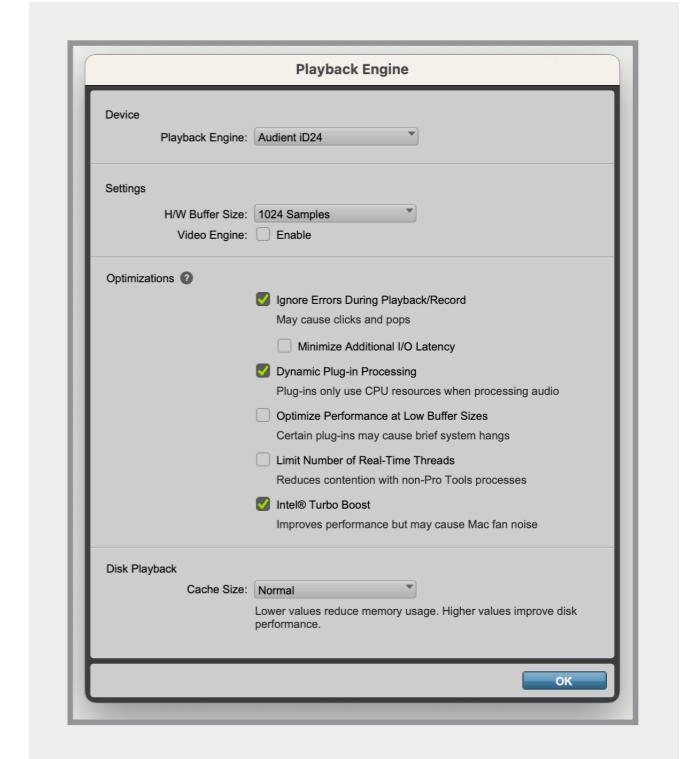
iD24を接続した状態でPro Toolsを起動し、新しいセッションが目的のサンプルレートで作成されていることを確認します。

Windowsの場合は、プロジェクトを開く前に、iDシステムトレイでレイテンシーとバッファーサイズの設定が完了していることを確認してください。



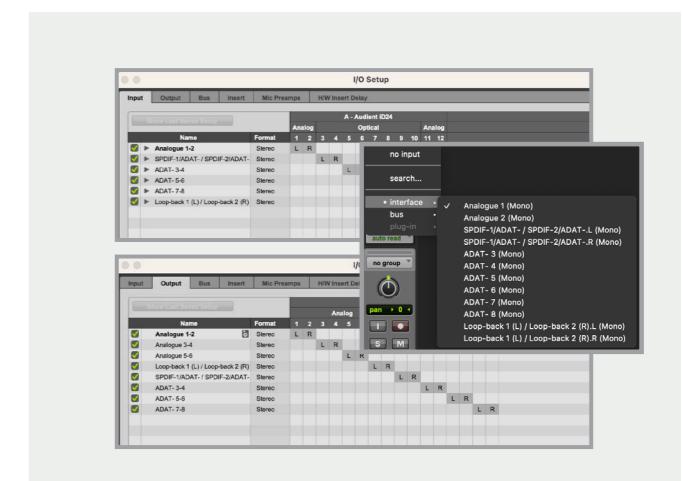
Playback Engine

[設定→ playback engine] で playback engine の設定に進みます。iD24がコンピューターの playback engine に設定されていることを確認して下さい。



I/O Setup

[設定] > [I/O...] に移動して iD24 が Pro Tools との間で 10 インプットと 6 アウトプットを正しく認識していることを確認します。



※ProToolsの設定に関する詳細は、Avidの取扱説明書をご覧ください。

※作業中にPro Toolsの再起動が必要になります。

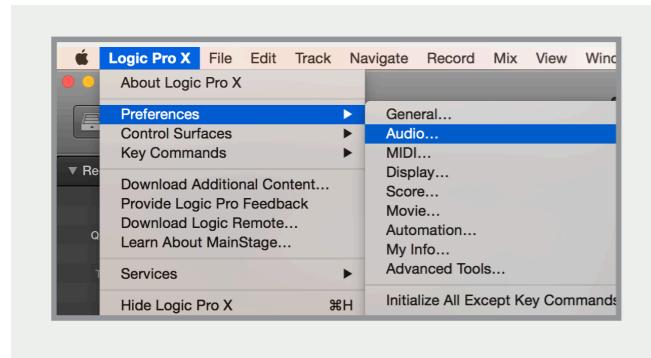


Logic Pro セットアップ

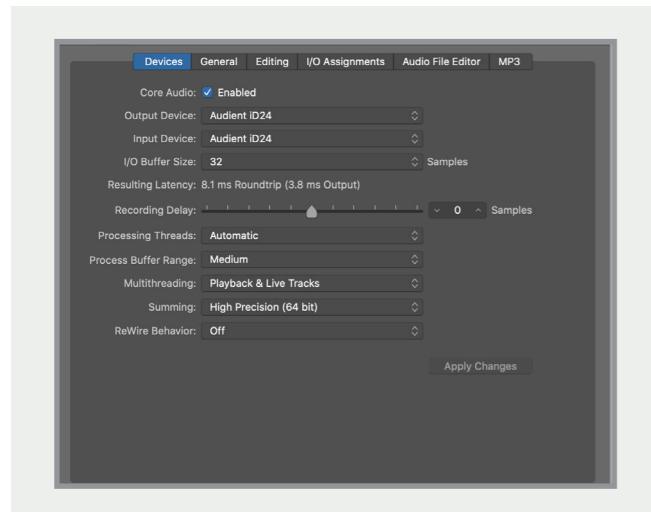
Logic Proと使用する場合

このマニュアルの[11ページ](#)以降に詳述されている手順に従ってiD24が正常にインストールされたら、Logic Proを起動して以下を確認します。

Logic Pro > 環境設定 > オーディオ



もし、ポップやクリックノイズ、歪みが出てプレイバックが不安定な場合、また“overload”的エラー表示が出てCPUへの負荷が大きい時は、バッファーサイズを上げてください。

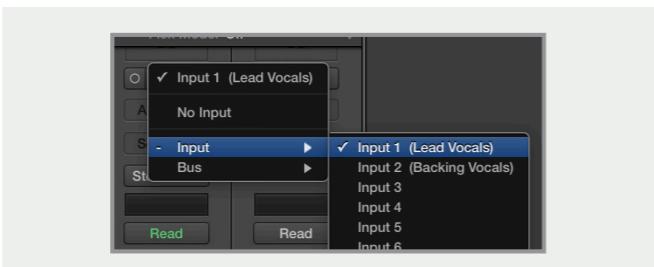


Logic Proセットアップ

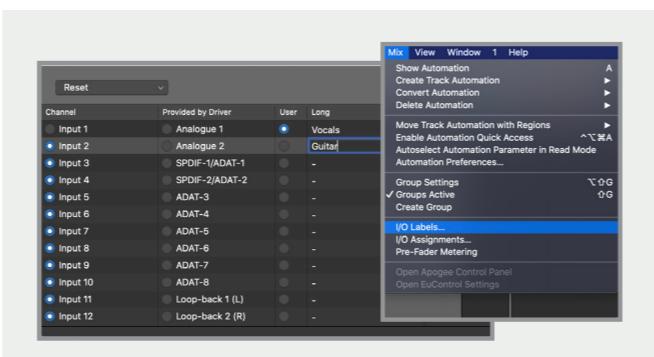
レコーディング中にiDミキサーで入力信号をモニターリーしている場合は、レイテンシーが短い同じソースのDSP信号が再生されて、ディレイがかかったダブル再生が起きるため、Logicソフトのインプットモニターを使用しないでください。

入出力をアサインする

iD24の全入出力(10入力/14出力)がLogicのルーティングに現れます。それらの入出力は I/O label機能で全てお好みの命名が可能です。便利な機能を、ぜひご活用ください。



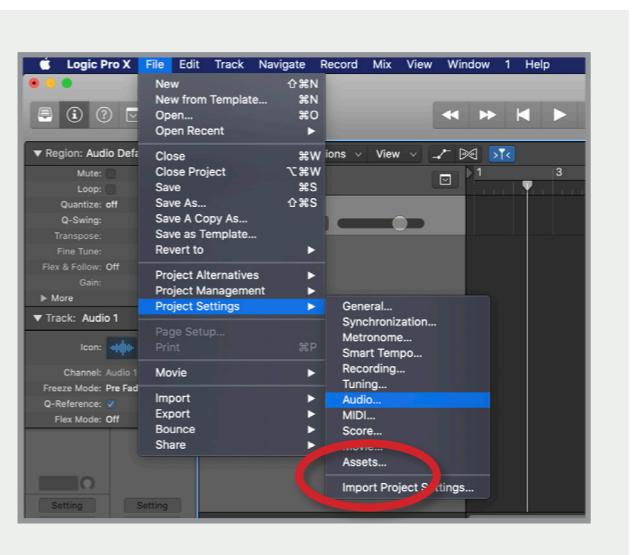
Mix > I/O Labels



オペレーション

iD24のクロックに外部クロックソース (ADAT または S/PDIF) を使用している場合は、セッションで録音および再生するときにLogic Proプロジェクトが同じサンプルレート値に設定されていることを確認してください。

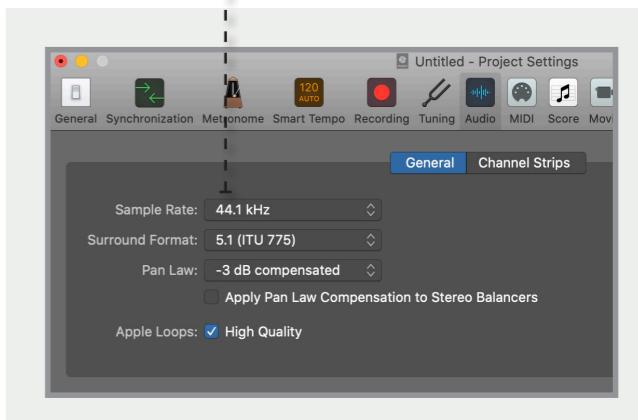
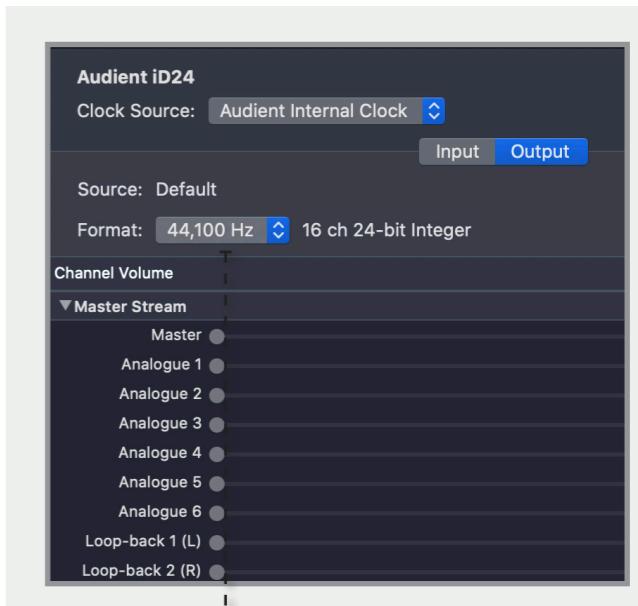
File > Project Settings > Audio



iD24で内部クロックを使用している場合、Logic Proでサンプルレートを設定するとiD24のサンプルレートがセッションと同様に更新されます。

システムが再クロックするため、わずかに一時停止する場合がありますが、異常ではありません。Audio MIDI Setupで確認することができます。

Macintosh HD > アプリケーション > ユーティリティ



※他の設定に関しては、LogicProの取扱説明書をご覧ください。



Cubase/Nuendo セットアップ

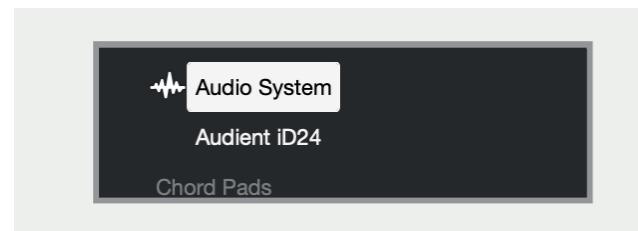
Cubase/Nuendoと使用する場合

Cubase/Nuendoと使用する場合iD24のインストールが完了したら、StudioメニューからCubaseまたはNuendoを起動します。次の手順でセットアップを進めて下さい。

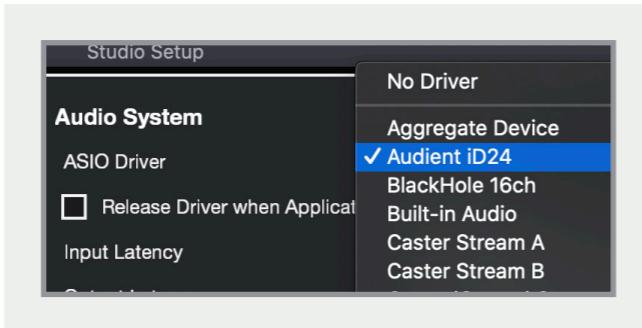
Devices > Device Setup...



オプションからオーディオシステムを選択します。



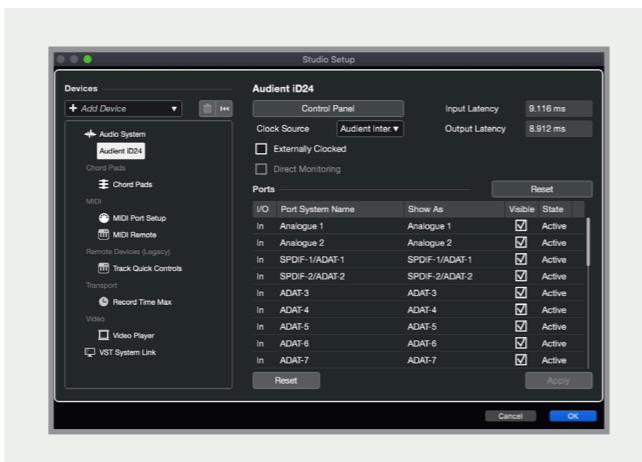
Cubase/Nuendoのドロップダウンメニューで“Audient iD24”的ドライバーが選択されていることを確認してください。



サイドメニューからAudient iD24をクリックすると、メニューを確認したり、クロックソースの設定、I/Oポートを有効にしたりできます。

ADAT または SPDIF を介して別のデジタルデバイスから外部クロックを使用する場合は、デバイスパネルでI/Oポートの名前を変更して、接続先をより適切に表すことができます（メインモニター、ヘッドフォンなど）。

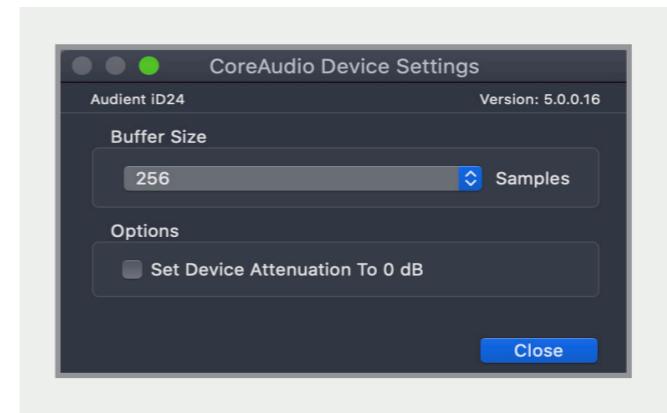
ここで選択した名前は、トラックの入出力チャンネルルーティングでI/Oを割り当てるときに表示される名前となるため便利です。



Cubase/Nuendo セットアップ

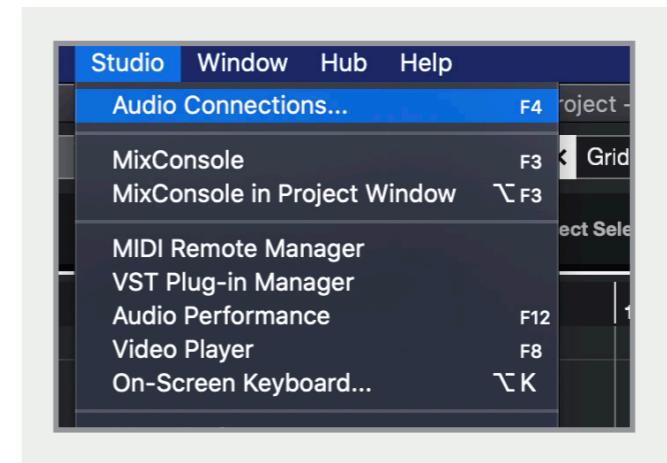
Cubase/Nuendoと使用する場合

バッファーサイズは、VSTデバイスディスプレイ内のコントロールパネルで設定できます。録音中にiDミキサーを入力モニターデバイスとして使用する場合は、CPUの負荷を軽減するために、それらをかなり高くしておこうが理想的です。

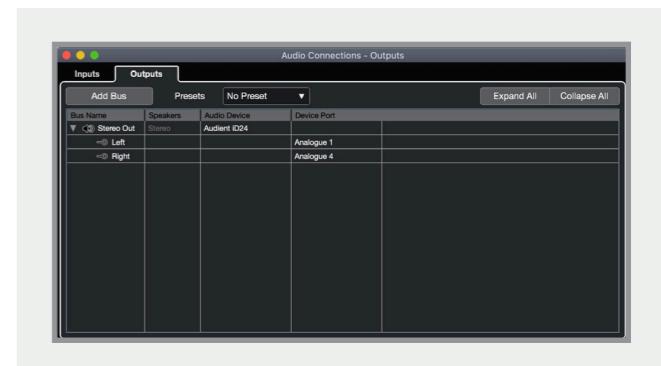


Studio SetupからAudio connections パネルに移動します。

Studio> Audio Connections (F4)



Cubase/Nuendo全てのバスやポートがここで確認できます。また、新しいバスは必要なI/Oにアサインできます。



バスはモノラル/ステレオどちらでも設定でき、VSTコントロールルームセクションの操作も可能です。

※他の設定に関しては、Steinbergの取扱説明書をご覧ください。

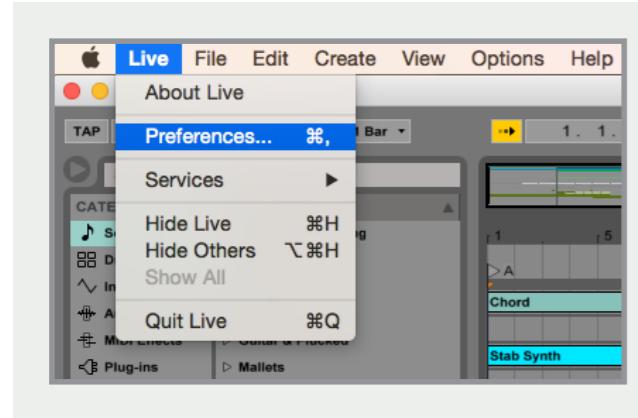


Ableton Live セットアップ

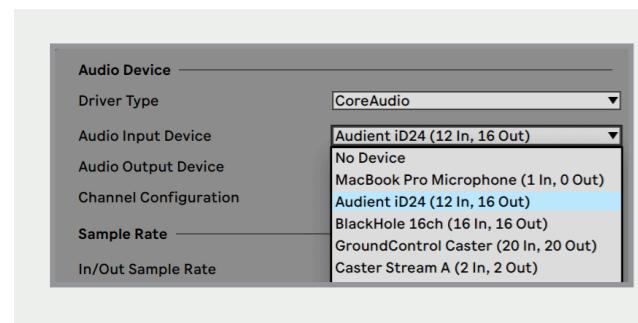
Ableton Liveと使用する場合

iD24のインストールが完了したら、DevicesメニューからAbleton Liveを起動します。次の手順でセットアップを進めて下さい。

Live > Preferences > Audio



オーディオタブでiD24がプレイバックデバイスにアサインされていることを確認してください。

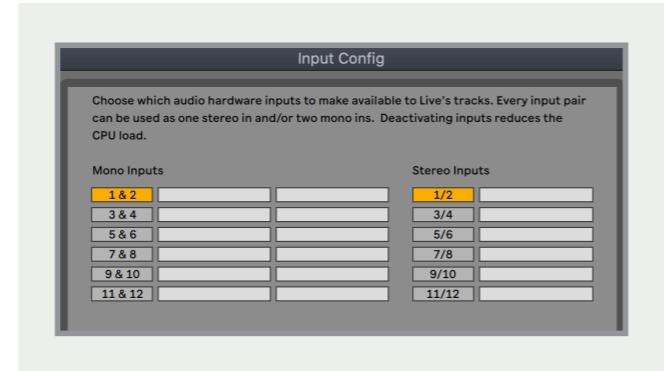


オーディオI/Oセッティングの詳しい内容は、Ableton Liveのユーザーマニュアルをご覧ください。

LiveAudioPreference/パネルで適正なバッファーサイズを決定します。iDミキサーでレコーディング入力ソースをモニターしている場合は、そのサイズは高めに設定できます。図のように、iD24が10-in&14-outデバイスとして認識されていることを確認しましょう。

必要であれば、configタブからアクティブI/Oチャンネル数を限定することもできます。

これはCPU負荷を下げるのに素晴らしい特徴です。



トラブルシューティング&FAQ

“本機に電源が入らない。”

USBケーブルの接続を確認してください。電源が入っていない場合、別のUSBポートやケーブルをお試しください。USBハブをご使用の場合はiD24本体からコンピューターに直接ケーブルを挿してみてください。

“DAWプレイバックのサウンドにポップノイズやクリックノイズが入る。”

コンピューターの性能に対して、バッファーサイズが低く設定されている可能性があります。これは、多くのプラグインやバーチャル楽器がロードされているような、大きなプロジェクトが原因で起きます。バッファーサイズを大きく設定してみましょう。

ソフトウェアシンセなどを使用した音源のトラッキングやレコーディング時にレイテンシーを抑えるために小さなバッファーサイズに設定しがちですが、ミキシング時には少しくらい高めのバッファーサイズであってもレイテンシーはあまり問題にはなりません。

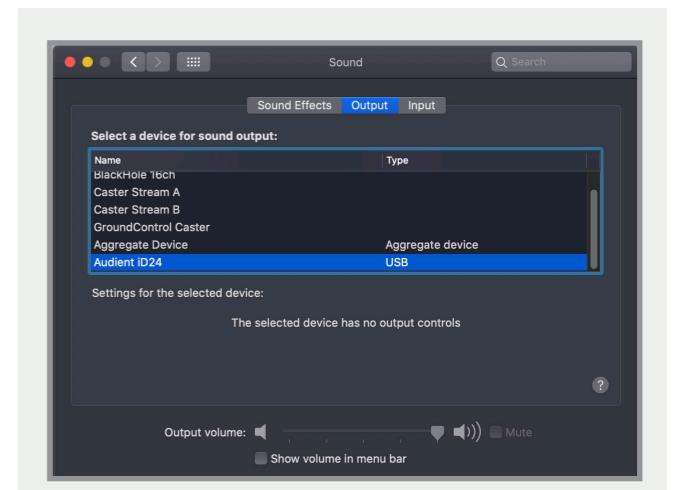
“コンピューターに接続してもiD24から音が出ない。”

まず、iD24とコンピューターがUSBケーブルで正しく接続されているか、両サイドの接続を確認してください。

次にiD24がDAWとコンピューター上でアクティブな再生デバイスとして設定されているか以下の手順で確認してください。

Macの場合(OSX):システム環境設定 → サウンド → 出力のタブ → Audient iD24

Windowsの場合:スタートメニュー → コントロールパネル → オーディオ・デバイス → Audient iD24



iD Mixerアプリを立ち上げ、コンピューターのiD24の認識を確認してください。iD24の動作が確認されたら、iDアプリを終了しても動作は継続されます。ソフトウェアミキサーでDAW Viewボタンを押し、DAW1+2のフェーダーレベルを上げます。

トラブルシューティング

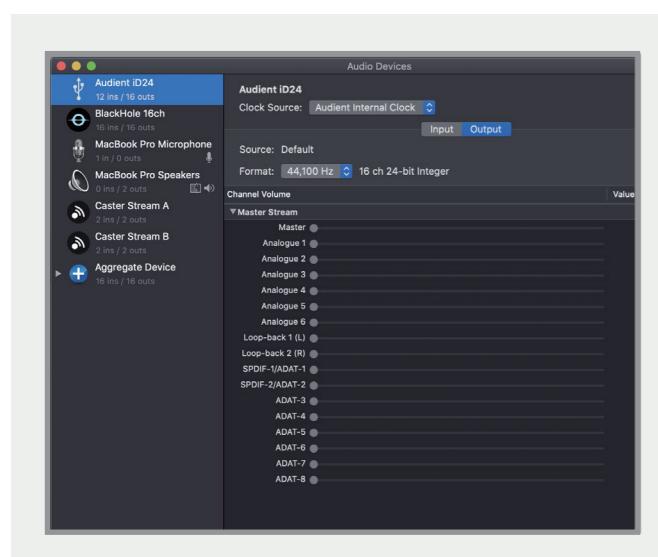
“外部機器（ADATまたはS/PDIF）とクロック同期していない。”

外部機器とクロック同期していない場合はStatus LEDがレッドまたはオレンジに点灯します。Status LEDがレッドの場合はクロック信号を受けておらず、オレンジの場合は受けているがサンプルレートが異なる状態を表しています。

macでのサンプルレートの変更はAudio MIDIセットアップへ行き変更します。

Macintosh HD → Applications → Utilities → Audio MIDI Setup

図のようにiD24がオーディオデバイスに選ばれていることを確認しましょう。(Window Menu → Show Audio Window)。



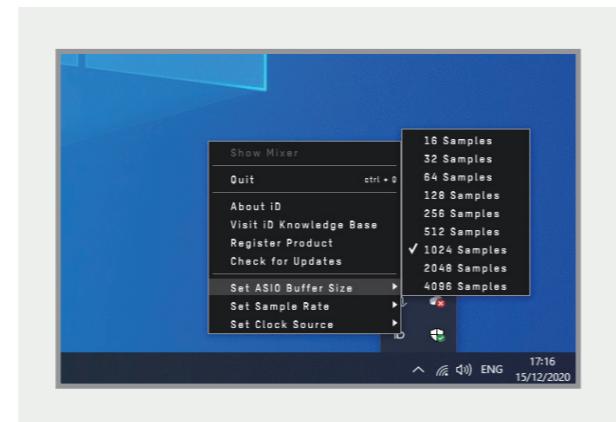
スレーブ接続した外部機器のADAT or S/PDIFクロックソース(内部クロック、ADATまたはS/PDIF外部クロック)が正しく選ばれていることも確認してください。

サンプルレートはFormatドロップダウンメニューに表示されます。



Windowsをお使いの場合は、システムトレイのiDアイコンへ行き、右クリックするとサンプルレートなどの設定が開けます。iDアプリのセットアップタブでもこれらの変更が可能です。

サンプルレートの変更は、外部ADATデバイスやセッションとのマッチングに必要です。



トラブルシューティング

“iDミキサーの設定をデフォルトに戻したい。”

iDアプリケーションをリセットするには、iDアプリケーションを完全に終了し、次のフォルダーに移動して state.xml ファイルを削除します。(アプリケーションの新規起動時に新たに補充されます。)

Mac の場合:

ユーザー → ライブラリ → Application Support → Audient → iD → state.xml

Windows の場合:

C: → ユーザー → (ユーザー名) → AppData → Roaming → Audient → iD → state.xml

※プリセットが保存されているため、親フォルダーは消去しないでください。

※Windowsで表示されない場合、アクセス権や隠しファイルの設定をご確認ください。

“ソフトウェア/ファームウェアが最新のバージョンか知りたい。”

iDミキサーのアップデートはaudient.com/id24/downloadsへ行き、最新ドライバーをダウンロード&インストールしてください。

コンピューターをインターネットに接続すると、iDミキサーアプリからファームウェアのリリースが確認できます。

このマニュアルの前のセクションをご覧ください。

FAQs

バグ修正などの情報に関してはサポートページをご覧ください。

日本語ページ:株式会社Hotone Japnホームページ

英語ページ:www.audient.com/support

スペシフィケーション

寸法



Microphone Preamplifier:

マイクゲインレンジ:	0 to +58dB
最大入力レベル:	+12dBu
クロストーク:	<-100dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @0dBu 1kHz :	0.0015%, -96dB
MIC EIN (等価入力雑音) :	-13dBu A-Weighted
CMRR (同相信号除去比) :	>75dB@1kHz
SNR :	97.5dB Unweighted, 100dB A-Weighted
周波数特性:	+/- 0.5dB 10Hz to 40kHz
入力インピーダンス (Mic)	3kΩ balanced
入力インピーダンス (Line)	10kΩ balanced
PAD :	-10dB
HPFカットオフ周波数:	100Hz
ファンタム電源:	48V +/-4V @ 10mA/Channel
XLR コンボ (メス)	Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)
1/4" TRS ジャック :	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Line Inputs:

ラインゲインレンジ:	-10 to +48dB
最大入力レベル:	+22dBu
THD+N @0dBu 1kHz:	0.0013%, -97dB

D.I / Instrument Input:

D.I ゲイン:	0 to 58dB
最大入力レベル:	+12 dBu
THD+N @ 0dBu (1kHz) :	0.0075%, -82dB
SNR :	95dB unweighted, 97.5dB A-weighted
周波数特性:	+/- 0.5dB 0.5dB 10Hz to 40kHz
入力インピーダンス:	500kΩ unbalanced
1/4" ジャック :	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

Analogue to Digital Converter:

最大入力レベル:	12.5dBu=0dBFS
クロストーク:	@1k -135dB, @10k -125dB
周波数特性:	+/- 0.2dB 0.5dB 10Hz to Fs/2 (Nyquist)
THD+N @ -1dBFS (1kHz) :	0.0004%, -108dB
ダイナミックレンジ:	122dB A-weighted
入力インピーダンス:	>10kΩ
1/4" ジャック :	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Digital to Analogue Converter

最大出力レベル:	12dBu=0dBFS
THD+N @ 1kHz -1dBFS :	0.0003%, -110dB
ダイナミックレンジ:	126.5dB A-weighted
クロストーク:	-130dB @ 1kHz, -115dB @ 10kHz
周波数特性:	+/- 0.1dB 10Hz to Fs/2 (Nyquist)
出力インピーダンス:	<100Ω
1/4" ジャック :	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

Word Clock Output:

ワードクロック:	44.1kHz to 96kHz
----------	------------------



USB 2.0 High Speed:

入力チャンネル:	10 (2 Analogue, 8 Digital)
出力チャンネル:	14 (6 Analogue, 8 Digital)
コネクター:	USB Type-C
同軸ケーブル:	1m USB 2.0 Type-C to Type-C

Digital Input:

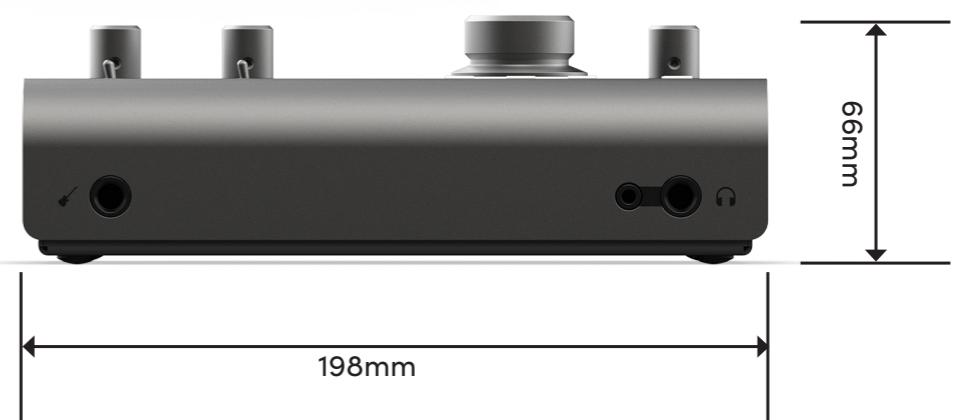
8-CHANNEL ADAT :	44.1kHz to 48kHz
4-CHANNEL ADAT :	88.2kHz to 96kHz (SMUX)
STEREO S/PDIF :	44.1kHz to 96kHz (Stereo)

Digital Output:

8-CHANNEL ADAT :	44.1kHz to 48kHz
4-CHANNEL ADAT :	88.2kHz to 96kHz (SMUX)
STEREO S/PDIF :	44.1kHz to 96kHz (Stereo)

DSP Mixer Latency Round Trip (in-to-out)

44.1kHz	0.344ms
48kHz	0.312ms
88.2kHz	0.188ms
96kHz	0.177ms



品質保証について

本機は、audient日本総代理店 株式会社Hotone Japanが、購入後1年以内の品質保証を行っております。

修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。

保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

●湿度の非常に高い場所

●砂やほこりが多い場所

●台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所

●空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されると製品不良が発生する場合が考えられます。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行って下さい。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは

弊社へ（ホームページの「修理について」からメールのみの対応です。）ご連絡下さい。

Glossary

A	Amperes
ADAT	Alesis Digital Audio Tape
ADC	Analogue to Digital Converter
DAW	Digital Audio Workstation
ASP	Analogue Signal Processing
CPU	Central Processing Unit
CUE	Artist Headphone Mix
DAC	Digital to Analogue Converter
dB	Decibel
dBu	Decibel referenced to 0.775Vrms = 0 dBu
dBFS	Decibel Full Scale
DC	Direct Current
D.I	Direct Injection (Instrument Input)
DoC	Declaration of Conformity
DSP	Digital Signal Processing
EQ	Equaliser
FAQ	Frequently Asked Questions
FCC	Federal Communications Commission
GB	Gigabyte
GUI	Graphical User Interface
HPF	High Pass Filter
HV	High Voltage
i/o	Input / Output
JFET	Junction Field Effect Transistor
LED	Light Emitting Diode
RoHS	Restriction of Hazardous Substances
RAM	Random Access Memory
S/PDIF	Sony Philips Digital Interface Format
THD+N	Total Harmonic Distortion + Noise
TRS	Tip Ring Sleeve (1/4" Jack Balanced)
TS	Tip Sleeve (1/4" Jack Unbalanced)
USB	Universal Serial Bus
V	Volts
XLR	Extra Live Return, Extremely Low Resistance, Canon X Series, Latching, Resilient Rubber Compound... or make up your own!

AUDIENT

audient 日本輸入総代理店
株式会社Hotone Japan
〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-4 JP-BASE御茶ノ水 9F